

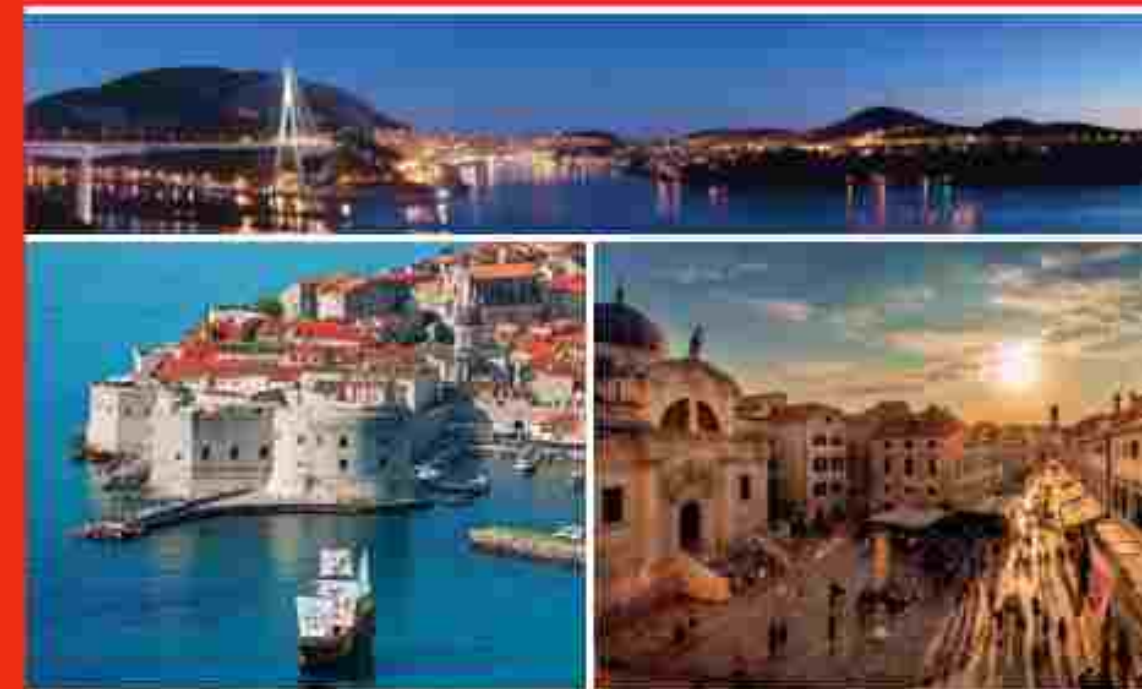


www.tzdubrovnik.hr



Turistička zajednica
grada Dubrovnika
Dubrovnik
Tourist Board

ドゥブロヴニク リビエラ 情報



Turistička zajednica
grada Dubrovnika
Dubrovnik
Tourist Board



INDEX

8. ドラッグロギックで検索について	30. Aリエット 男
9. ドラッグロギックへのアクセス	40. 減量に効果的といわれる
10. どんな 20代男性が利用するか	41. 乳癌に多い遺伝子は
11. 男性健康	42. ライソソーム機能
13. 恋愛季をするには	44. 減量に役立つ食材
14. ドラッグロギック・カード	45. エンドルフィン・ランニング効果の理由
15. 男性スポーツ	47. ウェルネス
25. 減量期	48. 7月10日のアフラディビティ
32. ギャラリー	50. ドラッグロギックの年 減量期
34. 減への入り口	51. 減量に効果的



BASIC CROATIAN

Good morning!	Dobro jutro!	おはようございます！
Good afternoon!	Dobar dan!	こんにちは！
Good evening!	Dobra večer!	こんばんは！
Good night!	Laku noć!	おやすみなさい！
Goodbye!	Godvečerja!	さようなら！
Good luck!	Sretno!	がんばれ！
Yes	Da	はい
No	Ne	いいえ
Pardon	Oprostite.	すみません
Excuse me	Oprostite	ごめんなさい
Thank you	Hvala	ありがとうごさいます
Please	Molim	ごめいはいしませう
My name is...	Zovem se ...	おなまえです
What is your name?	Kako se zoveš?	おなまえは？
Where is ...	Gdje je ...	...はどこですか？
I don't speak Croatian.	Ne govorim hrvatski.	クロアチア語を話せません

監修：ドゥッパエニク株式会社、Rumma Vito、写真：Zoran Marjanek、Darko Vukic、Milo Skerz、Martin Jaki、Dimitris Larent、Mark Romack、Ivan Orlovic、Izabela Zolmit、ドゥッパエニク株式会社、ドゥッパエニク・サマーフェスティバル写真、グラフィックデザイン：Darko Vukic、写真：Orad Romack、写真スーパーバイザー：Olivera Vukovic-Kicopova、印刷：ALTA 2、Zadarpank、2018年2月



観光客の皆様、ようこそドゥブロヴニクへ！

この素晴らしいCity（こんなにスペシャルな街なので大文字のCを付けます！）ドゥブロヴニクを訪れる皆様はこのパンフレットをご買いただければ、いつ、どこで、どんなことが楽しめるか、ドゥブロヴニクならではの楽しみ方がお分かりいただけます。この街の豊かな歴史に触れ、文化やエンターテインメント、スポーツ、ショッピングを楽しみ、そして近郊へ足を延ばしたり、美食を楽しんだり、世界で最も美しい街との出会いを満喫されることでしょう。皆様の旅路になりますように、多くのインフォメーションをお伝えします。皆様のドゥブロヴニクのご旅行が素晴らしいものとなりますように願っています。

皆様のお出かけの前に、ぜひドゥブロヴニク・カードをご購入ください。このカードはドゥブロヴニク・ツーリスト・センター（TTC）をはじめ、皆様の宿泊先ホテル、または旅行会社で販売しています。オンラインでの購入も可能です。www.dubrovnikcard.com

このカードがあると城壁観光、美術館やギャラリー入場の際にお得なディスカウントが受けられます。

さあ皆様、旅行にお出かけください。城壁の内側で今も歴史が紡がれています。そこに生きる人々の暮らしぶりをご覧になり、多くの思い出を得られますように。

皆様らしいご滞在をお祈りいたします！

15世紀以上にも遡るドゥブロヴニクの長い歴史のなごりは、街のあらゆるところに残されています。皆様はきっと、まるで街全体が美術館のようだとお感じになることでしょう。しかしながらそこは、人々が今も日々の暮らしを営む場所でもあります。

街の特徴は、中世時代からの城壁に囲りを囲まれていることです。城壁は2キロ程あり、そこを歩くと印象的な建物や街、墓通り、庭やテラスを見おろすことができます。城壁の反対側に目を移すと、そこには海が眺められます。海はこの街の歴史に大きく影響しました。

皆様がドゥブロヴニク全体の第一印象を得るのには、こうしてまずは城壁を歩くことが、最良の方法でしょう。

ドゥブロヴニクは1979年にユネスコ世界遺産として認められて以来、ユニークな文化が注目されています。多くの歴史的なモニュメントがあり、様々な年中行事やお祭りが開催されています。それと同時に、ここはリラクゼーションと休養を楽しむ場所でもあります。浜辺でくつろぎ、遠くへ遠くへ海を眺めたり、階段を降りてカフェでゆったりとした時間を過ごしたり、墓通りにあるレストランで土地の名産品を味わったり、そんな過ごし方もお勧めです。

ドゥブロヴニクはこのように実に魅力に富んだ街です。どうぞ皆様様がご自分のお気に入りのドゥブロヴニクを発見され、再びこの街を訪れてくださるようお願いしています。



Dubrovnik Card



1 day



3 days



7 days



ドゥブロヴニク

の歴史について

ドゥブロヴニクに人々が住み始めたのはいつ頃からなのかについては、歴史家のあいだでも意見が分かれています。考古学者の意見では、2世紀ごろにローマ帝国の軍事基地がこの地に作られました。その裏付けとして、5世紀から6世紀の間に建造されたローマ式ビザンチン様式の巨大な聖堂の遺跡が発見されています。従ってドゥブロヴニクは1600年の歴史を有することになります。

ドゥブロヴニクはアドリア海の東海岸に位置し、その地理的利点のおかげで何世紀にも渡って着々と開発が進められました。海運業の発展に伴い15世紀には3000隻の船舶、400万人の船乗りを抱える最盛期を迎え、当時海運業の雄であったヴェネチアと肩を並べる地中海の最大の港となりました。

そのかわり、辛抱強い政治折衝が功を奏しドゥブロヴニクは利権を手中に収め、海運業と陸運業を統合して急速に巨万の富を得ました。

ドゥブロヴニクは10世紀には「独立都市」宣言をし、その数百年後には「独立共和国」を樹立しましたが、1808年にヨーロッパ全体の戦況（ナポレオン戦争による征服）に影響されました。

共和国の時代には統率する総督が在任しました。当時、政府は3つの委員会で構成されており、すべての議員はドゥブロヴニクの貴族階級の中から投票で選出されていました。庶民には選挙権はなかったものの、この小さな共和国では法の規範が守られ、庶民も安全で安定した生活を営むことができました。

公共施設として役所、保健所（13世紀）、下水設備（14世紀）、上水道（15世紀）、世界初の検疫所（14世紀）、高齢者や弱者のための施設（15世紀）などが造られました。共



和国政府はあらゆる芸術の庇護者でもありました。1106年の楽譜は、保存されている最古のもので、フランシスコ派修道院の楽局で見つかりました。この楽局は1317年に設立され、世界最古の3ヶ所の楽局のひとつです。ドゥブロヴニクの文字はクロアチア文学全体の大部分を占めています。最初に上演された屋外のショーは現代のオペラに似たものでしたが、役所から依頼された作家が脚本を書き、政府の建物の前で1552年に上演されました。その年はドゥブロヴニクに劇場が誕生した年でもあり、それらの劇場は今も使われています。劇場利用の1例は有名なドゥブロヴニク・サマーフェスティバルです。屋外で演劇が上演され、またあちこちの街角ではコンサートが開かれます。



クロアチア共和国は1991年に独立を宣言しましたが、後にセルビアに領土を侵略されました。ドゥブロヴニクは1991年10月に攻撃されました。セルビアとモンテネグロの軍はドゥブロヴニクの征服と破壊を企み、かつてないほどの軍事力を投入しました。ドゥブロヴニクは旧市街とその周辺を除く全地域が占領され、略奪と激しい破壊行為を受けました。ドゥブロヴニクでは2万1000人の避難民が8ヶ月ものあいだ水や電力の供給なしで籠城し、その間も激しい爆撃を受け、人々は苦しみと落ちた生活を強いられました。しかしながらこの時もまた、人々は諦めてしまうことなく、強い心とたくましい精神力を決して失いませんでした。この時の人々の勇気ある抵抗運動は、後にクロアチア独立を世界が認めるにあたり、最高の助けとなりました。



ドゥブロヴニク

へのアクセス

空路で行く。

ドゥブロヴニク空港は街から約20キロのところにあります。空港到着の際は、どの到着便にも時間を合わせたドゥブロヴニク旧市街行きのバスをご利用になれます。出発の際は、グルージュのバス・ターミナルから空港行のバスをご利用になれます。国内便なら1時間半前にはバスにお乗りください。通常の国際便ご利用の場合は、フライトの出発時間に合わせたバスが2時間前にターミナルを出発します。

タクシーはいつでもご利用になれます。

自転車で行く

ドゥブロヴニク近郊にはガソリン・スタンドが数か所あります。一部のスタンドは24時間営業です。シティー・マップにガソリン・スタンドの場所が記されています。

駐車場について

旧市街をご自分の自動車で訪れる場合は、イリイナ・グラヴツァ（住所: Zagrebačka ulica bb）の立体駐車場のご利用をお勧めします。24時間営業で711台の駐車スペースがあります。その駐車場からポギシツェ公園を横切るか、あるいはペロ・ブドマニ通りを歩くと、わずか5分で旧市街にたどり着きます。

路上の駐車スペースはサイン表示されていて、駐車料金や支払い方法について説明されています。駐車料金の支払いには、キオスクやパーキング・メーターで販売されている駐車クーポンをお使いください。駐車クーポンには必要事項を正確に記入し、自動車のフロント・ガラスに置いてください。コイン式のパーキング・メーターを利用する場合は、お釣りが出ませんので、必要な金額のコインを前もってご用意ください。時間制限付き駐車スペース以外の場所に駐車する場合は、有効な駐車チケットをフロント・ガラスに置いてください。

グルージュ港の公共駐車場（住所: Obala pape Ivana Pavla II 1）も24時間ご利用になれます。駐車場についての詳しいお問い合わせはこちらへ。 www.sanitat.hr/en/

船で行く

ドゥブロヴニクから他のクロアチアの港へ行くのに、またイタリアのバーリへ行くのにとても便利なフェリー便や双胴船の便があります。近隣の島々へ行くのに毎日複数回の船便があります（コロチェブ島、ロブドゥ島、シパン島、そしてムリエト島行は毎日。コルチュラ島とラストヴォ島行は季節による）。グルージュ港は旧市街から3キロ、徒歩で30分のところにあります。道沿いにはアドロリニア社（Jadrolinija）、フェリー、切符売り場、銀行、ATM、図書館、駐車場、食料品店、スーパーマーケット、スルジュ

百貨店、屋外の青物市、ペトツカホテル、会社、レンタカー店、レストラン、カフェ、そしてドゥブロヴニク・ツーリスト・インフォメーション・センター (TIC) などが軒を連ねています。旧市街から港までは徒歩ですと30分ですが、公共バス (オレンジ) を利用すると1a番、1b番、1c番、3番、そして8番のバスで10分くらいかかります。バス・チケットはバスの中で15クナで販売しています。または新聞販売キオスクで買うと12クナです。港の入口にはタクシー乗り場があります。

バスに乗る

ドゥブロヴニクのバス・ターミナルはグルージュにあり、港の近くです。そこにはインフォメーション・オフィス、予約オフィス、遺失物係、タクシー乗り場、キオスクがあります。

国際バス路線便は毎日ではありませんが、ドゥブロヴニクからクロアチア国内の主要都市に行くバスは毎日運航しています。バス路線の中にはバス・ターミナルに停まるものもあります。



どんな 交通機関を利用するか

公共バス利用について



ドゥブロヴニク滞在中は公共バスの利用をお勧めします。リベルタス公共バス社の空調の効いたバスは快適です。バスの車体はどれもオレンジ色なのですぐにわかります。市内はバス路線が網羅され、どのバス停にも時刻表が掲示されています。時刻表はツーリスト・オフィスやホテルでも配布しています。オンラインでも入手できます。

www.libertasdubrovnik.hr

バス・チケットは乗車時にドライバーから15クナで買うことができます。キオスクでは12クナで販売しています。それ以外にもビレ門のリベルタス社チケット・カウンターでも、バス・ターミナルでも、そしてモコシツァのホテルや旅行会社でも販売しています。

バスの中でチケットを買う場合は、お釣りがもらえないのであらかじめ必要な金額を用意してください。バス・チケットは乗車してから1時間以内なら何度でも乗り換えに利用できます。1日乗車券は30クナです。

磁気カードを使うときは、表側を上、磁気部分を自分の側にしてバスの自動改札機に差し込みます。読み取ったあと磁気カードは戻ってきます。接触しなくても読み取れるタイプのバス・チケットを使う場合は、センサー部に当てるだけです。

自動車、スクーター、バイク、船をハイヤーする



ドゥブロヴニクにはハイヤー・サービスの会社がたくさんあります。自動車はもちろん、スクーターや自転車や船をレンタルすることもできます。乗り物をレンタルすれば、ドゥブロヴニク近郊を散策したり、近隣の田舎を自由に訪れることができます。たいていの会社ではレンタル手続きの際、クレジット・カードと国際運転免許証の提示が必要です。50 cc以上の自動2輪車をレンタルするにはカテゴリーAの運転免許が必要です。船をレンタルする際は有効な船舶操縦免許証が必要です。

タクシーを利用する



タクシー乗り場は街の繁華街にあります（シティ・マップをご覧ください）。タクシー料金はサインとともに分かりやすく表示されます。乗車の時からメーターをスタートしますが、もしそうでなかった場合は、旅行者はタクシー料金の支払いを拒否できます。たいていのタクシーには4名が乗車できます。万が一何か問題になるようなことが起きた場合は、有効なスタンプが押され、自動車ナンバーの記載されているタクシー料金のレシートを運転手から受け取っておいてください。ドゥブロヴニクにはタクシー会社が3社あるので、もしも問題が起きた場合はその会社を調べる必要があります。

街をタクシーで回って素晴らしい景色を楽しみたいとお思いになるかもしれませんが、そういってドライブのルートとしては、たいていグリージュ港やラバドゥ、リエカ・ドゥボロヴァチュカ、

CITY BUS LINES MAP PLANI AUTOBUSNIH LINIJA



- (1) Linija za prevoz putnika u Ploče
- (2) Linija za prevoz putnika u Ploče i na obalu
- (3) Linija za prevoz putnika u Ploče i na obalu (dnevna linija)
- (4) Linija za prevoz putnika u Ploče i na obalu (noćna linija)
- (5) Linija za prevoz putnika u Ploče i na obalu (dnevna linija)
- (6) Linija za prevoz putnika u Ploče i na obalu (noćna linija)
- (7) Linija za prevoz putnika u Ploče i na obalu (dnevna linija)
- (8) Linija za prevoz putnika u Ploče i na obalu (noćna linija)
- (9) Linija za prevoz putnika u Ploče i na obalu (dnevna linija)
- (10) Linija za prevoz putnika u Ploče i na obalu (noćna linija)

15,00 HRK



1abc

2

2a

3

4

5

6

7

8

9

17

10

11

12

13

14

15

16

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38



LIBERTAS - BURDOSHIN LTD.



www.libertas-burdoshin.hr

15,00 HRK

15,00 HRK

そして島々を眺められる新しい機を渡ります。アドリア・ハイウェイをドライブすると街全体を眺めることができます。そしてスルジュ山（標高415メートル）の頂上からは、ドゥブロヴニクそして周辺の全容が眼下に見おろす、素晴らしい景色が楽しめます。

ドライバーと交渉のうえ半日、あるいは一日自動車をチャーターしてドゥブロヴニク近郊を訪れるドライブ旅行もお勧めします。

www.taxi-dubrovnik.hr, www.taxi-ragusa-dubrovnik.com, PlaviTaxiDubrovnik

ロクラム島への船便



自然保護区のロクラム島は、人気のハイシーズンには旧市街の港から島のポルト・デュ・湾まで30分おきに船が出ています。所要時間は10分程です。乗船券は船の傍にある機線のスタンドで購入できます。www.lokrum.hr

悪天候の場合は船が運休することがあります。

エラフィテ群島への船便



エラフィテ群島（コロチェブ島、ロブドゥ島そしてシバン島）への船便はグルージュ港から出港します。時刻表はアドゥロリニヤ・オフィス（乗り場付近）、ドゥブロヴニク・ツーリスト・インフォメーション・センター（TIC）で配布しています。オンラインでも入手できます（www.jadrolinija.hr）。旅客フェリーが1日に4便運航しています。自動車利用者のためのカー・フェリーは1日に1、2便運航しています。日曜日や祝日には運航スケジュールが変更されます。

ムリエト島への船便



ムリエト島へは双船船、ノーナ・アーナで行くことができます。船はソブラで停まり、人気のあるハイシーズンにはムリエト国立公園の近くのボラチエにも停まります。詳しい情報はG&V 汽船会社に問い合わせてください。www.gv-line.hr

7月と8月には船はコルチュラやラストヴォまで行きます。アドゥロリニヤのカー・フェリーはソブラからペリエシャツ 半島（本土）のブラプラトウノまで1年中運航します。詳しい問い合わせはこちらへ。www.jadrolinija.hr

ムリエト島、コルチュラ島、ホウヴァル島、ブラチュ 島、そしてスプリト



高速の双船船のクリロ・スターとクリロ・エクリプセがグルージュから、5月から10月には週に3回から4回運航します。人気のハイシーズンには毎日運航します。乗船券はオンラインで購入できます。また市内の旅行会社でも販売しています。<http://www.krilo.hr>

アドゥロリニヤ社は6月から9月末まで毎日、ドゥブロヴニクからコルチュラ島、コルチュラ島、ホウヴァル島、ブラチュ 島、そして スプリト島行き双船船を運航しています。

宿泊施設

ドゥブロヴニクには、キャンプ場、快適な貸し部屋から高級な5つ星ホテルまで、様々なタイプの宿泊施設があります。宿泊施設を選ぶときには市内のどの地域に滞在したいかもお考えください。

ホテル

クロアチアの他の地域と同様に、ドゥブロヴニクにおいてもホテルは2つ星クラスから5つ星クラスまで4段階あります。ドゥブロヴニクのホテルはとて最も高級で、クロアチアの中で最も洗練されています。最高級クラスの豪華なスイート・ルームから中級クラス、スタンダード・クラスまで、様々なクラスがある中からお選びいただけます。小規模なホテルでも親切なサービスが受けられます。ユース・ホステルも数軒あります。

私営の宿泊施設

もしくは

B&B、ホステル、ゲストハウス

ドゥブロヴニクにはたくさんのバケーション・レンタルやコンドミニアム、貸し部屋があります。宿泊料金が安いうえに、このような宿泊施設では地元の人々のような暮らし方が体験できます。賃が長くても週間で快適な貸しマンションやコンドミニアムは、家主の住まいから完全に独立しており、プライバシーが保たれた部屋や建物が提供されます。このような宿泊施設は旅行会社やインターネットの予約サイトで探することができます。「ラスト・ミニット・ドゥブロヴニク」では、宿泊施設の空き状況を確認することができます。ドゥブロヴニク・ツーリスト・インフォメーション・センターでは宿泊施設の検索はできませんが、ウェブサイト上で閲覧できる宿泊先リストを提供しています。http://www.tzdubrovnik.hr/lang/en/news/ad_smjestaj/index.html

大切なお知らせ

滞在登録を必ずしましょう。滞税、通過税の課税制度により、クロアチア人も外国人旅行者も納税が義務付けられています。安全で質の良い宿泊施設の利用のためにも滞在登録は大切です。もしもクレームがおありの場合は旅行業監督部に電話してください。

電話番号 +385 20 351 048

オート・キャンプ

ドゥブロヴニク近郊の海沿いには、自然を楽しむ人々にぴったりの小規模で魅力的なリゾート地があります。ドゥブロヴニクの市内にも、ラバツク地区にソリチュード・キャンプ場があります。このキャンプ場は旧市街からバスでわずか15分のところにあり、浜辺やホテル、散歩道などの緑あふれる地区です。トレーラーハウスやキャンピング・カーが停められる駐車場があるのはグリージュ港だけです。駐車料金は時間制、または日数制です。

大切なお知らせ

許可されたキャンプ場以外の場所でキャンプをしたり、トレーラーハウスやキャンピングカーを駐車すると罰金が科せられます。ドゥブロヴニクでは一般の駐車場や一般道沿いでキャンプをすることは禁じられています。

ヨットで旅する場合

ドゥブロヴニクの海をヨットで旅すれば、島々の美しさにすっかり魅了されることでしょう。クルーズや探検を楽しんだり、一年中催されているヨット・レースに参加したり、ヨットの旅を楽しむ人々も素晴らしいホリデーを楽しむことができます。セーリング後マリナーに入港すれば、水や燃料、食料などヨットの旅に必要な品物が補給できます。必要なサービスも受けられます。

ドゥブロヴニクACI マリナーはリエカ・ドゥオロヴァチュカ (コモラツ) にあり、年中無休です。グレージュ港入口から2キロ、旧市街からは6キロの場所にあります。380のウェット・パース、140のドライ・パースが用意されています。マリナーから市内中心地までは便利なバス便があります。

注意：クロアチア共和国の領海を航海する場合、船長は最も近い港に入港して入国手続きを済ませ、航海費と航海税を支払うことを義務付けられています。グレージュ港では年中無休で入国手続きができます。また人気のシーズンにはツァグヴァトでも入国手続きができます。

大型ヨット用の停泊用パースはグレージュ港にあります。オルサン・セーリング・クラブのパースは基本的にクラブの会員専用です。INA給油所は一般の船も利用できます。



お食事 をするには

まずは市内の市場へ行きましょう。ドゥブロヴニク的美味しい料理はシンプルです。たいていは数種類のスパイスでアクセントを加えただけの、自然な味わいを生かす料理法です。

有名なシェフが地元のアーマーズマーケットへ行くと、ジュバ・ドゥブロヴァチュカ、コナヴレ、プリモリエなどの近郊地域で採れた農作物の素晴らしい味と豊かに驚くといえます。

肥沃な農地、豊かな陽光に恵まれて、この地域では多くの種類の野菜と果物、たとえばアーティチョーク、ナス、マメ、スズキーニ、スズキーニの花、様々なキャベツ、ザクロ、メロン、イチジク、プラム、そして土地の名産品「クリバヤ」と呼ばれるブドウが生産されています。

地方の小さな食堂で伝統的な料理を味わうとしたら、おいしい、燻製ハム、チーズのオイル漬け、タコのサラダ、ゼレナ・メネストラ（燻製肉の燻製とキャベツのシチュー）、スポルチ・マカロニー（仔牛肉のスパイス煮込み）、ニシンのフライ、イブシのグリルなどが召し上がれます。高級レストランでは、クリエイティブな若手シェフ達がアドリア海産のとても新鮮なシーフードや、世界的に有名なマリ・ストーン産のオイスターを調理しています。肉料理についても特別な料理があります。ドゥブロヴニクの美食が変化しつつあるのは、ヨーロッパの影響を受けた若いシェフ達が、従来の郷土料理にアレンジを加えているからです。フュージョン料理や韓国料理、ボスニア料理、イタリア料理、インド料理、日本料理、メキシコ料理、タイ料理などの国際色豊かなレストランも旧市街地区や近隣の街に増えています。

ドゥブロヴニクでの農業のお食事は「フル・フレスコ」の、美しいテラス席やロマンチックな広間でお楽しみいただけます。ライブ音楽を聴きながら、素晴らしいクロアチア産ワインをご賞味ください。ワイン・バーはワイン好きの人々にも人気がありますが、クロアチア・スタイルのおつまみを楽しみながら赤や白のワインを召し上がってください。ドゥブロヴニク地域のワインとして良く知られているのは、ペリエヤツ半島の赤ワイン、ブラヴァツ・マリのワイン各種、ヨルチュラ島のポシプの白ワインなどです。マルガジヤ産ワインは歴史的に「神の果汁」と呼ばれています。またコナヴレ地方には南部独特のフレーバーが楽しめるワインもあります。

年間を通じてグルメ・イベントを紹介するウェブサイトがあります。www.tzdubrovnik.hr

10月末には有名なドゥブロヴニク・グルメ・フェスティバルが開催されます。



ドゥブロヴニク・カード

ドゥブロヴニク・カードをお持ちになると、様々なディスカウントやサービスが受けられ、ドゥブロヴニクやツァヴタトでの楽しみが一般と充実します。ドゥブロヴニクでの滞在期間によって、1日券、3日券、7日券の3種類からお選びください。1日券では最も人気のある歴史的名所9ヶ所の入場ができます。3日券と7日券では文化的モニュメント10ヶ所と、最も人気のある名所9ヶ所、そしてツァヴタトの美術館1ヶ所に入場できます。

ドゥブロヴニク・カードを購入すると市内全域で使えるバス・カードがもらえます。また3日券、7日券を購入すると近郊でバスに乗れるクーポンがもらえます。

提携店でお買い物をするとときにドゥブロヴニク・カードを見せると、ディスカウントが受けられます。提携店にはレストラン、店、お土産店、宝飾店、旅行会社などがあります。(ドゥブロヴニク・パートナー・カード)。



観光スポット

ほとんどの歴史的な遺物や建築物、文化的施設は城壁の内側に集まっているので、徒歩で巡ることができます。しかし地元のカルチャーに特に興味があるのなら、ストラドン地区を散策し、迷路のような裏通りをぶらついて、アイスクリームを食べたり、コーヒーを飲んだりするのも面白いでしょう。

城壁と要塞

ドゥブロヴニクを訪れる観光客なら誰もがドゥブロヴニクの城壁を眺めることでしょう。これはヨーロッパでもっとも保存状態のよい要塞です。全長1940メートルの壁には5ヶ所の要塞と16の塔や警固所があります。城壁は1年中訪れることができます。入口は3ヶ所で、東側は聖ロカ教会（ドミニカ教会の向い）の隣にひとつ、オプゾラ木橋の向いの聖サヴィウール教会の隣にもひとつ、そして聖ヨハネ要塞の海軍博物館の隣にもあります。

城壁に沿って歩くと城壁の建築構造が分かり、とても興味深く思われることでしょう。要塞は5ヶ所あり、ミンチエッタ・ポカール、聖ヨハネの3ヶ所は城壁の一部になっています。他の2ヶ所、西側のセント・ローレンス、そして東側のレヴェリンは城壁の外側に造られた防衛のための要塞です。ミンチエッタ要塞は街で一歩高いところにあり、北側からの攻撃からドゥブロヴニクを守っていました。要塞はドゥブロヴニクの防衛のシンボルであり、そこにはクロアチアの国旗がいつも掲げられています。夏になると、そこにはドゥブロヴニク・サマー・フェスティバルのリベルタスの旗も合わせて掲げられます。南西方向にはポカール要塞、またの名をスヴィエズダンが、海を挟んでセント・ローレンス要塞と向かい合っており、城壁の角を守っています。この要塞は小さな湾や城壁の周りの壁、どし橋を守るために16世紀に造られました。現在、要塞はドゥブロヴニク地域の岩石破片の保存の場所とされています。聖ヨハネ要塞は1346年に、中世を囲む形の要塞として初めて建築され、湾の南東方面を防衛しました。湾の入り口へと橋が通られ、敵の侵入を防ぎました。要塞基地の1階には水族館があり、2階と3階は海軍博物館となっています。聖ヨセフ要塞のふもとには灯台のある埠頭があり、そこはボルボレーラと呼ばれる恋人たちのデートの場所です。散歩道があり、夏には旧市街の人々が水泳を楽しむ場所でもあります。ボルボレーラからは城壁の外、東の入り口にそびえ立つレヴェリン要塞が眺めることができます。石と木でできた跳ね橋が大きな要塞基地と陸地とを繋いでいます。またもう1ヶ所では石の橋が要塞基地と街を繋いでいます。要塞基地は3方を海で囲まれ、残る1方は海に面しており、難攻不落の街の1部分を占めています。初期のころに建造されたレヴェリン要塞が現在の姿になったのは16世紀のことです。ドゥブロヴニク・サマー・フェスティバルでは、船の中やテラスでドゥブロヴニク・シンフォニー・オーケストラが演奏会を開催します。ザ・カルチャー・クラブ・レベリンはお洒落なクラブ・ミュージックが聴ける場として世界的に知られています。



セント・ローレンス要塞 (ロヴリエナツ)

セント・ローレンス砦は旧市街の西側の麓に37メートルの岩山の上にあります。海からの攻撃から街を守った要塞地であり、西側のビシ門を防衛した、戦いと自由のシンボルです。要塞地地の入り口の壁には名高い句が掲げられています。NON BENE PRO TOTO LIBERTAS VENDITUR AURO (たとえ世界中の黄金を差し出されても、自由を売り渡すはしない)。

要塞地地についての最も古い記載は1301年ですが、もっと昔に建造されたと考えられています。現在、セント・ローレンス要塞はドラゴヴニク・サマー・フェスティバルの屋外のメイン・ステージのひとつであり、シェイクスピアのハムレットの土壇にもっともふさわしい劇場として世界的に有名です。デンマークの不運な王子の役を演じて、ラデ・シエルベジヤ、ダニエル・ディールイス、デレク・ジャコビ、そしてゴラン・ヴィシユニッチなどの有名な俳優達がこのテラスに登場しました。



ストラドゥン (オノフリオ大・小噴水、オルランド、鐘楼とブロンズ像、旧綿習邸、スポンザ)

何世紀にも渡り城壁には2ヶ所の入り口がありました。(東にはプロデ門、西にはビシ門)。そして北側の第三の入り口は19世紀に開けられたものです。)夜には鉄の扉は上げられ、細かけざる者の侵入を防いでいました。ゲートを入るとブラーツァあるいはストラドゥンと呼ばれる大通りが続いています。ドラゴヴニクの広々とした屋外広場は散歩の、あるいは、人々の集まる場所として人気があります。大規模なフェスティバルやパレードも開催されます。ストラドゥンはショッピングの中心地でもあります。広々とした美しい大通りが旧市街を南北に分けています。ストラドゥンの総街は12世紀にさかのぼります。入植地と本土とを隔てていた深い海峡が埋め立てられてストラドゥンができました。ブラーツァはむしろ「ストラドゥン」の名で知られています。城壁の一部ができたことによって12世紀末に南方の入植地がひとつの街に統合されましたが、その当時からブラーツァは重要な役割を果たしていました。ブラーツァという地名は、ラテン語の「ブラデア・コムニス」つまり「屋外の公共広場」に由来しています。「ストラドゥン」はよく知られたニックネームですが、ベネデアの「広い道」という意味から生まれた呼び名です。オノフリオ大噴水はストラドゥンの西の端にあり、製



作者のオノフリオ・デグ・カヴァの名前にちなんで名付けられました。彼は建築家でもあり1438年に完成した17キロに及ぶドラブログニクの水供給設備を計画しました。もう1つの小さな噴水もオノフリオが手がけたもので、ストラドゥンの反対側の端、鐘楼の近くにあります。暑い夏の日、新せられたスレート瓦屋根の上空に鐘楼の鐘が鳴り響くとき、大小の噴水の冷たい水はとてども気持ちがよく、生き返る心地がします。

鐘楼は高さ31メートル、1444年に建てられました。1509年にはフィエソーロの有名な建造家ミジエール・ディ・ジョヴァーニが巨大な鐘を铸造しました。また鐘は2人の兵士のブロンズ像を伴いました。このブロンズ像はパーロとマーロと名付けられ、ドラブログニクの緑色の像として知られてい



ます。パーロとマーロの仕事は鐘を鳴らして警を告げることです。鐘は毎時3分間鳴らされ、毎時30分には1度だけ鳴らされます。鐘楼とスポンガ宮殿の間にあるのはルジャです。これは屋外にある鐘で政府の会議の時に鳴らされ、警報としても使われます。ルジャは1463年に建造され、1952年に大規模修復が行われました。スポンガ宮殿はルジャの左側にあり、現在も建築当初のゴシック・ルネッサンス様式の姿を留めています。ドラブログニク共和国の時代には倉庫や税関事務所として使われたのでデウオーナと呼ばれていました。（税関という意味の言葉）。スポンガ宮殿はドラブログニクの名工であるボスコエ・ミリチエヴィッチによって設計され、造幣局、財務省、大蔵省として使われました。

現在、スポンガ宮殿はドラブログニクの公文書館として使われており、12世紀以降ドラブログニク共和国の陥没までの古文書を保管している。世界でも最も重要な公文書館のひとつです。特に重要なのは法蘭西連の膨大な文庫です。そのなかには1272年のドラブログニクの法律書の原本があります。オスマン帝国時代以来の膨大な文庫は最も重要な歴史的文庫です。

オランダ円柱は中世の騎士が剣を手にしている像です。ゴシック様式の特徴的な微笑みをうかがい、長い縮れ毛に顔を掩取られている騎士は、ヨーロッパの十字軍英雄像のなかでも最もハンサムであると語られています。1418年に交わされた条約により、この円柱はミラノの名工、ボネーノによって作られ、ドラブログニクの名工の協力のもとここに展示されました。オランダ円柱はドラブログニ



クが併立した国章であることのシンボルです。円柱の上にはかつてはドゥブロヴニク共和国の国旗が掲げられていました。現在ではクロアチア共和国の国旗も掲げられ、フェスティバル期間にはセント・ブレイスの旗がドゥブロヴニク・サマー・フェスティバルの旗が期間中45日間掲げられます。

教会や修道院

(聖人ブレイス、フランシスコ会修道院、カテドラル、聖人サヴィウール、ドミニコ会修道院)

ドゥブロヴニクのパトロンであった聖人ブレイスのために建築された。このバロック様式の教会はオランダの像に向かい合っています。1715年、ベネチアの名工マリーノ・グロベツキーによって建てられました。その場所にはかつては聖人ブレイスのためのロマネスク様式の教会がありました。15世紀に造られた、ゴシック様式の聖人ブレイスの彫像が教会の中央祭壇にあります。この彫像はド



ゥブロヴニクの会務工師の作品です。彫像は左手に杖のひな型を持っています。このひな型は、1667年に地震的な地震で失われる以前、杖がどんな姿であったかを知ることができるという歴史的価値のあるものです。

聖人サヴィウールに捧げられた小さな教会は、ストラドン の西、オノフリオ大噴水の反対側にあります。大地震にも留りず教会全体の破壊を免れたことについて神への感謝感謝が込められた教会で、1520年に元老院からの命によって建てられました。教会の正面の壁にはこのことを記した額が掲げられています。この教会はコルデュラの名工ペタル・アンドリイチによって建てられ、1667年の破壊的な大地震にも耐えました。現在も竣工当時の姿を留め、ドゥブロヴニクにおけるルネッサンス建築の素晴らしい一例となっています。現在、この教会はコンサートや展覧会の会場として利用されています。

旧薬局 はフランシスコ会修道院の中に1317年に開かれたという史料がありますが、そのほかの記録はほとんど残っていません。元来は修道士のために設けられた薬局でしたが、時が経つにつれ、博愛精神や慈善精神により一般にも門戸が開かれました。1317年以来薬局として利用されており、これは世界最古の薬局のひとつです。そこで提供される薬は昔ながらの製法によるもので、今も旅行者に人気があります。この薬局はバロック様式の教会の回廊にあります。回廊の柱頭にはロマネ



スク様式の動物がデザインされています。中にはルネッサンス様式の美しい広間があり、音楽関連の古文書や金器・銀器の美術品が所蔵されています。

「聖母世界天」のドゥブロヴニク・カテドラルは16世紀初頭から現在の場所にあります。史料によると、以前にあったロマネスク様式のカテドラルは、彫像で飾られた円天井のある豪華な教会でした。伝説では、この教会を基盤したのは英国の獅子心王、リチャード1世であったとされています。彼は1192年に第三次十字軍遠征がらの捕虜、コクルム・善付近で難破しかけたところを危うく助けられました。1981年にカテドラルの修復が行われたとき、もっと以前に造られたバシリカ聖教会堂やカテドラルが発見されましたが、それらは5世紀、6世紀ごろの建築様式でした。この発見によってドゥブロヴニクの歴史時起源についての考え方が変わりました。発見された遺物によると、6世紀ごろにはすでに都市コミュニティとしての城の形骸が始まっていたと考えられます。現在、カテドラルは絵画や記念品が展示されています。1552年からは、ティツィアーノの描いた3連祭壇画、「聖母世界天」が展示されています。



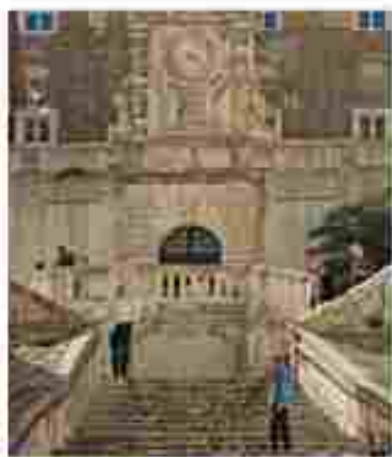
聖ドミニコ教会は、クロアチア海岸におけるゴシック様式の宗教建築物の中で最も大きい教会です。建築はシンプルでゴシック様式の丸屋根があり、中央祭壇はひとつしかありません。他の部分とはゴシック様式の通路で隔てられており、吹き抜けが3分所あります。中央祭壇の上の通路には、非常に価値のあるパオロ・ヴェネツィアーノ作のキリスト受難像が1314年からあります。ドミニコ会修道院には15世紀、16世紀のボジダレヴィッチ、ノムジッチ、そしてトプリチエヴィッチといった、ドゥブロヴニク派画家による絵画を所蔵しています。またティツィアーノの描いた、ドゥブロヴニクのパトロンであった聖人ブレイズ、聖女マグダラのマリア、木天竺、ラファエル、そしてトビヤスの肖像画も所蔵しています。重要な古文書、初版本、聖職、11世紀の聖書、ドゥブロヴニクの金銀工師による装飾品も展示されています。



広場（ドゥルジッチ、グンドゥリッチとボシュコヴィッチ広場）

街の大通りやストラドンを散策すると、あちこちの広場に行き着きます。カテドラルの正面にあるマリノ・ドゥルジッチ広場はカルメン地区に続き、港や水族館へと至ります。地元の人々はよくそれを「マリア様の前」と言います。広場を取り囲んでいるのは、ドゥブルグニク・カテドラル、ソルコチェヴィッチ邸、聖バーンロミューの小さな教会、ドゥルジッチ・マスレ、フィティカ・アートギャラリー、そしてアメリカ合衆国国務長官であったロナルド・レーガンの記念館です。レーガン氏が率いた平和的チームは1996年4月3日に聖人ジョン丘陵（ドゥブルグニク空港付近）にて飛行機墜落事故に遭い、生存者はいませんでした。

この広場は、1508年にドゥブルグニクで生まれ、1567年にベネチアで死去したマリノ・ドゥルジッチの名前にちなんで名づけられました。彼は劇作家であり、詩人であり、教会のオルガン奏者でもありましたが、陰謀を企んでいた人物だとも言われています。彼はドゥブルグニクとイタリアで学業を修め、1543年にはシエナ大学の学長に任命されました。1566年、彼はドゥブルグニク共和国政権の転覆を図り、フィレンツェでコシモ・メディチに近づきました。彼の考えは、ドゥブルグニクの上流階級から特権を奪い取り、一般市民が政治に参加できるような新しい制度を作ることでした。彼は、愛、青春への郷愁、貪欲、狡猾、強欲など様々な普遍的なテーマで作品を書きました。彼の遺稿は人種の生きるたくましさに溢れています。最も有名な作品として「ティレナ」、「グリジューラ」、「ピーナスとアドニス」、「ストラナツ物語」、「守銭奴」と「ベク」などが挙げられます。彼の代表作である音楽、「マーロイエ叔父さん」は、善人も悪人も本質的に違いのない平等な世界を仮定し、金銭があればなんでも手に入る、愛までも得ることができるという社会を描いています。



ドゥブルヴニクの詩人、イヴァン・グンドウリッチ（1589年ドゥブルヴニク生まれ、1638年没）の墓はグンドウリッチ広場にあります。政変で教育を受けた後、彼はコナブレの税務に2度任命され、上院議員、代議士を務め、ボスニアのバシャ公使となりました。彼の作品にはカトリック宗教改革の精神が表われており、人の生活がいかに不安定であるかを主題にしています。グンドウリッチの最もよく知られている作品は「放蕩息子」の「誤」（1622年ベネチアで執筆）や「ドゥブルヴニク」（1628年にドゥブルヴニクで初演）、そして「ネスマン」（1826年に再刊）です。彼は死後、フランススコ教会に葬られました。この教会は1667年の壊滅的な大地震のあとに建てられたもので、教会の図書館には1652年の最古の「ネスマン」や1826年にドゥブルヴニクで印刷された作品が大切に保存されています。この広場では野菜のマーケットが開かれ、近郊の農家の農作物が毎朝売られています。広場の両側にはバロック様式の階段があり、上にあるルジエ・ボシュコヴィッチ広場へとつながっています。この階段は1738年にローマの建築家、ピエトロ・パザラクアによって造られました。ローマのトリニタ・デイ・モンティ教会の有名なスペイン階段を思い出させるデザインです。この広場で目につく建物は、聖イグナチウスのイエズス会教会、そしてコレジウム・ラグシム（有名なイエズス会の学校）です。この街並みはダルマチアにおいて最も洗練されたバロック建築だと考えられています。この教会は有名なイエズス会の建築家、イグナツィオ・ポーゾによってデザインされ、1735年に完成しました。教会内部にはガエタノ・ガルツィア の描いたイエズス会の創始者、聖イグナチウスの生涯を描いた大規模なフレスコ画が飾られています。教会の横にはイエズス会の学校の建物があります。そのデザインはシンプルで、きりっとした輪郭はバロック様式建築の特徴を示しています。下にあるグンドウリッチ広場へとバロック様式の階段が続きます。

トウルステノ 村

この村はドゥブルヴニクから20キロ程の所にあり、その地名はクロアチア語でサトウキビを意味するトウルスティカという言葉に由来しています。新鮮な水に恵まれたおかげで多くのサトウキビが栽培されています。樹齢400年を超えるプラタナスの巨木が2本、中央通りの右手の小さな広場に横たわっていて、このプラタナスはこの種類ではヨーロッパで最大だと言われています。村の一番の見どころは素晴らしいトウルステノ 樹木園です。このような庭園はクロアチアのアドリア海岸では他に例を見ません。歴史的な庭園や地中海や異国からの膨大な植物を有する樹木園は1948年にドゥブルヴニクの貴族、グジェティッチ・ゴゼー家の夏の別荘として造られました。樹木園はメモリアル・ガーデンとして保護されています。25ヘクタールの敷地はいくつかのユニットに分けられていて、夏の別荘と歴史あるルネッサンス様式の庭園、19世紀から20世紀にかけての歴史あるネオ・ローマン庭園、古いオリーブの木立、自然な状態で育ったオークの木々、アルプス松、杉の木、マツキアそして海岸の岩などで構成されています。イヴァン・マリノフ・グジェティッチ・ゴゼー はルネッサンス時代、1494年にトウルステノ の林地に夏の屋敷を建てました。その傾斜はすぐにドゥブルヴニクやその周辺の人文学や文化の中心となりました。この牧歌的な田園屋敷にドゥブルヴニクや諸外国から多くの詩人が集まり、人文主義者、哲学者たちが著作を綴り、人間の本性についての真摯な論議を続けていました。中でも特筆すべきは詩人のソヴィエター・ズリッチ でした。彼女は大変美しい女性として外国でも知られており、その評判はルネッサンス期のクロアチアに留まりませんでした。庭園には目を引く噴水があり、その水は噴水の14本の石のアーチを超えて70メートルの水路を流れていました。1736年にこのルネッサンス様式の噴水は、豪華なバロック式の妖精像と海の神、ネプチューン像を中心とした石像群に変えられました。



エラフィテ群島

13の島々がらなるエラフィテ群島はドゥブロヴニクの北西にあります。主な3つの島々、コロチェブ島、ロブドゥ島、そしてシバン島には大昔から人々が住んでいました。島にはイリュリア人の住居跡やギリシャやローマに由来する地名があります。この島々は11世紀から国が陥落するまで、ドゥブロヴニク共和国の領土でした。島々の初代総督は1272年に任命されました。15、16世紀のドゥブロヴニクの黄金時代、これらの島々も繁栄し、現在よりも多くの人口がありました。

グレイージュ港からの船便、フェリーを利用すれば、日帰り旅行でも島を2箇所訪れることができます。

穏やかで美しい風景を楽しむ場所として、コロチェブ島の古いクロアチア教会、ロブドゥ島のシュニユの砂浜、シバン島のスジュラジュにあるシュコチバハ・ステイエ/パヴィッチの夏の屋敷などがあります。スジュラジュからルカ・シレンスカ村へと5キロにわたる肥沃な谷間の



道を歩いたり、バスに乗ったりして楽しめます。ルカ・シレンスカ村には旧総督邸や聖ステファン教会があります。新鮮な海の幸や野菜料理、果物、チーズ、オリーブオイル、そして地元産のワインを出す小さなレストランがあります。

ロブドゥ島には別の楽しみ方もあります。村から少し歩いたところに「Your Black Horizon」と名付けられた芸術作品の展示があります。これはデンマーク・アイスランド出身の芸術家オラフ・エル・エリクソンとロンドンの建築家デビッド・アジャイの共同作品展です。



スルジュ山の眺望と美術館 ケーブル・カーに乗って

高さ415メートルのスルジュ山頂上からは旧市街や周辺の景々がよく見え、素晴らしい眺望を楽しめます。タクシーで行くこともできますが、街からもすぐにケーブル・カーに乗ることができます。また徒歩で行くこともできます。頂上にはカフェやレストランがあり、ナポレオン時代の要塞は1991年から1995年にかけて行われた戦争の記念館となっています。頂上には石で作られた十字架が立てられています。これはダルマチアの島、ブラチュ産の石でできており、ブラチュ・ホウヴァル 教区から寄付されたものです。90年代の戦争で破壊されましたが、かつて同様の十字架がここにありました。

ケーブル・カーは1969年に造られました。戦争で完全に破壊された後、2010年に再建されました。ふもとの駅は旧市街から徒歩数分のところにあり、ブローデ門またはボシュコヴィツ・チェヴァ通り（種格から4番目の通り）の階段の上にあります。ケーブル・カーは30分おきに出発します。ハイシーズンの場合、下りのケーブル・カーの最終便は夜中の12時です。他の時期にはもう少し早く終了します。ふもとの駅や旅行会社、街のキオスクで乗車券を販売しています。



隔離所

ドゥブロヴニクは何世紀にも渡り、海運と商隊交易の要港でした。ヨーロッパで最も早く検疫の重要性を認識し、旅行者が病気を持ち込むことを防いだ街のひとつです。最初の隔離は40日間続き、(ここから隔離所と名付けられました)。最初の隔離所はムルカン島、そしてツアウタトの向いにあるボバラ島に作られました。後になってロクルムにも隔離所ができましたが、すぐに廃止されました。1590年には街の東門の岩山の上に、壁で囲まれた中庭付きの茶の建物が始められ、1642年に完成しました。この場所はラザレツ 隔離所として知られ、外部から来た商人や船乗りはここに滞在させられました。ここはよく整備された施設で水の供給があり、僧侶や内科医、外科医らが従うために多数配備されていました。検疫の規則は厳格に守られました。ラザレツの保存状態は良いですが現在は修復されて様々な芸術品を展示したり、クラフトのワークショップを開催しています。また、学生の主催するシンジヨ民族合唱団の公演や若いアーティスト楽団の発表の場としても使われています。



旧市街の港

ボスコイェ・ミリチエヴィッチ は1440年頃に生まれた才能ある建築家で、わずか26歳の若さで街のエンジニアに任命されました。実際のところ今日の旧市街の港を造り上げたのはバスコイェです。彼がカシウカシェ 防波堤を港の入り口に築き、風や波そして外敵を防ぎました。夜間には聖ヨハネ要塞から港の入り口まで巻上げ機を使って鎖を張り、招かれざる船舶や敵の侵入を締め出していました。ミリチエヴィッチ はゴージオ・ダ・セベニコ のデザインによる新しいオドゥ・ポンテ ゲートの建築も手がけました。港灣にまつわる彼の一連の建築物は16世紀初頭に完成しました。ベスカリア (魚市場) やボルボレーラ 防波堤はオーストリア統治の時代に建設されました。港には2つの兵器庫、造船所があり、そのドライ・ドックでは有名なドゥブロヴニク船舶の建造や修理が行われました。そこは今ではアルセナル レストラン (兵器庫跡レストラン) になっています。



美術館

ドゥブロヴニク美術館

入場券には次の施設の入場が含まれます。

旧総督邸や海事博物館（セント・ジョン要塞）、レヴェニン 要塞（考古学研究）、民族学博物館（穴の敷倉）、マリノ・ドゥルジッチ 邸、ドゥブロヴニク自然科学博物館

開館時間は施設によって異なります。ドゥブロヴニク美術館の休館日は12月25日のクリスマス、1月1日の正月、そして2月3日のセント・ブレイスの日です。

文化歴史博物館（旧総督邸）

Pred Dvorom 1, tel: +385 20 321 422

文化自然博物館は旧総督邸にあります。かつてこの屋敷にはドゥブロヴニク共和国の政府が置かれ、総督の住まいとしても機能していました。

家具や絵画、コイン、そして16世紀から19世紀にかけて使用されていた日用品が豊富に展示されています。1階には送金、年鑑、公的事務室があり、ドゥブロヴニクの貨幣、印章、分銅のコレクションが展示されています。中2階には時計のコレクションが、2階には美しい家具、肖像画、制服が展示され、またドムス・グリスティ 薬局の薬品や様々な武器も展示されています。

中央会議室の扉の上には共和国のモットーが掲げられています。「オブリディ・プリヴァートルム・プブリカ・クラテ」（私事は忘れて公共のことに取りかかろう）。海運の船長であり、慈善事業の後援者でもあったミホ・ブラクトブラクトの胸像はP. ジャコメッティ の1628年の作品ですが、この胸像はドゥブロヴニク市民が彼の功績を称えて置いた唯一の公的モニュメントです。中央大広間は修復され、現在はコンサート会場としても人気があり、とくにサマーフェスティバルのときに賑わいます。



海事博物館

海事博物館はセント・ヨハネ要塞の2階と3階にあります。2階の展示場では、ドゥブロヴニクが海運業や造船業でどのように発展を遂げたか、その始まりから陥落までの全体像が見られます。3階では19世紀に海運貿易がドゥブロヴニクやペリエシャツ半島で再興された様子が見られ、第2次世界大戦以前、そして以後のドゥブロヴニク汽船船隊についても展示されています。



民族学博物館は

民族学博物館は16世紀に建てられた穀物倉庫にあります。そこには当時、小麦、大麦、雑穀が保存されていました。「rupe (ア)」と呼ばれる深い地下貯蔵庫が岩盤に掘られ、その内側は防水性のある塗料でコーティングされていました。この貯蔵庫では穀物を常に摂氏17度で保存することができました。保存食品は長期間の包囲・攻撃への備えとして、6ヶ月分備蓄されていました。

2階口は当時の経済の状況についての展示や建築物が見られます。3階には農民のコスチュームや手織りの布地が展示されています。



考古学博物館-レヴェリン要塞

「ドゥブロヴニク考古学博物館の中世初頭の彫刻作品」展では主に教会内の石造りの複製品、例えばプレロマネスク様式、そして初期ロマネスク様式の祭壇像、説教壇、天幕、聖歌隊ストール、柱、柱頭、門、窓枠、アーチの上部などが展示されています。

そこでは、レヴェリン考古学調査・建築開発・修復集の展示があり、の建築方法が見られます。

マリン・ドゥルジッチ の館

www.muzej-marindrzic.eu

マリン・ドゥルジッチは最も偉大なルネッサンス期の作家です。彼の館を訪れ、現代的なオーディオ・ビジュアルによる紹介をご覧になり、彼の人生や作品に親しんでください。



ドゥブロヴニク自然科学博物館

www.pmd.hr

ドゥブロヴニクの自然科学分野研究は、1872年に設立されたパトリオ博物館から始まりました。薬学研究者であり船主でもあった アントウン・ドロバツの個人コレクションのほか、様々な展示物があります。

フランシスコ会修道院

小さき兄弟会の薬局では1317年以来収集された歴史ある品々が、フランシスコ会修道院の回廊に展示されています。良好な状態で保存された調剤品や、15、16世紀にイタリア・フランス・オランダからもたらされた陶器類もあります。他にも、様々な圧搾機、モルタル、14世紀の薬留器、薬草の正確な計量をした処方箋などが展示されています。博物館では他に刑を見ない教会音楽の手書きの楽譜や、名も知れぬ画家による価値ある絵画、14世紀の聖人ウルスラの聖遺骨、奉納された宝飾品などが見られます。



カテドラルと宝物庫

絵画「聖母被昇天」を描けるバロック様式カテドラルは18世紀に建築されました。元々そこには、12世紀にロマネスク様式のカテドラルがありましたが、1667年の大地震で倒壊しました。ロマネスク様式のカテドラルの建築は、ロクルム島の解説で述べたように、英国の獅子心王リチャード1世の伝説と関連があります。バロック様式のカテドラルの地下にある礼拝堂は、特別に申請をすれば入室が許可されます。カテドラルの宝物庫には、12世紀から19世紀までの182の聖人の聖遺骨が安置されています。数名の聖人や殉教者の遺骨は、金銀工師による繊細な細工が施され、黄金罎や貴石で飾られています。特に見るべきものはセント・ブレイスの遺骨です。

ドミニコ会修道院博物館

www.dominikanci-dubrovnik.hr

ドミニコ会博物館は修道院の地下礼拝堂にあります。様々な展示があるなかでも最も重要なのはボジダレヴィッチやハムジッチ、そしてドブリチュヴィッチ などドゥブロヴニク派画家による15世紀から16世紀の絵画です。他にも奉納された宝飾品、聖遺骨、手書き原稿、初版本、重要書類、何名もの法王からの手紙、ビザンチン様式の聖母子を描いたイコンなどが展示されています。最近修復された、チチアンの描いたセント・ブレイス、マグダラのマリア、大天使ラファエル、トビアスの絵画も見られます。中央祭壇上にはパオロ・ヴェネツィアーノが14世紀に彫った巨大な十字架像があり、特に目を引きます。



Turistička zajednica
grada Dubrovnika
Dubrovnik
Tourist Board

Dubrovnik Tourist Board Information Centre
Info and Touristika capabilities from Dubrovnik

PILE: Braće 5, tel/fax: +385 20 312 011

info@tzdubrovnik.hr





ユダヤ教礼拝堂

ユダヤ教礼拝堂とユダヤ教博物館

ドゥブロヴニク共和国は1546年以来ユダヤ教徒を受け入れ、やがて旧市街のジュディオサカ通りにユダヤ教徒居住区ができました。1652年には、かつて邸宅であったところがユダヤ教礼拝所になりました。内廊はバロック様式で装飾されています。ところどころ変えられてはいるものの、現在も保存状態は良好で、ヨーロッパにおける南欧系ユダヤ教徒の礼拝堂として2番目に古い礼拝堂です。500年にわたってドゥブロヴニクに根づいたユダヤ教徒の歴史の証として、博物館には多数の宗教美術品、古文書、13世紀から17世紀の律法書などが展示されています。ユダヤ教徒居住地区には墓地があり、街の西門の近くには小さな噴水があります。



シグラタ女子修道院博物館

この博物館へはセレスティーナ・メドヴィチヤ通りから行くことができます。16世紀から19世紀にかけての絵画や礼拝用の品々、14世紀の十字架、18世紀の機織、レース加工、刺繍作品などが展示されています。ほとんどの展示物は、華納品や修道女たちの手工芸品です。

ドゥブロヴニク防衛記念館

スポンガ広場にあるドゥブロヴニク防衛記念館には、1991年から1995年にかけてのクロアチア紛争におけるすべての犠牲者の写真が展示されています。

アッパー角塔 / ミンチェッタ要塞

ドゥブロヴニクのユニークな歴史が公開されました。最近発見されたかつての「工業要塞」はミンチェッタ要塞のすぐ下にあり、15世紀後半にはそこで鋳造業が行われていました。

クロアチア紛争博物館 - ドゥブロヴニク / インペリアル要塞、スルジュ山

ドゥブロヴニクのクロアチア紛争博物館は、スルジュ山のインペリアル要塞の内部にあります。今もまだ建築の途中ですが、1991年から1995年にかけての残虐な攻撃に対する反撃のシンボルとなっています。博物館の常設展示としては、「1991年から1995年のクロアチア紛争におけるドゥブロヴニク」というテーマに関連した500種類の展示物があります。テーマはいくつかの章に分けられており、最初はドゥブロヴニク共和国の陥落とインペリアル要塞の歴史に

ついで、そして1991年のセルビア・モンテネグロによる侵略、勝利の日、クロアチア軍の動静、市民の受けた被害、民間人の住宅や文化的モニュメントが受けた被害について展示されています。展示品は重要書類、芸術作品、ドキュメンタリー写、印刷物、武器、地雷、爆弾、戦況図、司令、軍隊の標品、包囲されていた理のドゥブロヴニク市民の日常生活の品々、正しい記録や録音テープ、参加した人々の回顧録、スルジュ山で1991年に実際に掲げられた軍旗、地雷地雷、戦況記録などです。ドゥブロヴニク防衛の戦死者名が額に入れられ、要塞の近くに掲げられています。

ロナルド・ブラウン記念館

www.ugdubrovnik.hr

アメリカ合衆国商務長官であったロナルド・ブラウンの率いる貿易使節団の一行は、1996年4月3日コナブレで飛行機墜落事故に遭い、使節団員全員が亡くなりました。記念館は事故の1年後に建てられました。記念館にはアートギャラリーがあり、ドゥブロヴニクの20世紀の代表的画家であるアントン・マスレ、イヴォ・ドゥルチッチ、そして ジューロ・プリティカの作品が展示されています。

ドゥブロヴニク公文書館

12世紀からドゥブロヴニク陥落までの公文書が保存されており、世界でも非常に重要な公文書館のひとつとなっています。特に重要なのが1272年のドゥブロヴニク成文法原本を含む法律に関する蔵書です。オスマン帝国時代以降の公文書が所蔵されており、その時代の研究資料として世界でも最も充実した資料のひとつです。



ギャラリー

ドゥブロヴニクには多くのアートギャラリーがあり、アート作品の展示・販売を行なっています。旧市街のギャラリーでは展覧会が開催されます。

ドゥブロヴニク現代美術館

ここにはクロアチア、ドゥブロヴニクの画家による素晴らしい絵画のコレクションがあります。不定期に展覧会が開催され、クロアチアの古来から現代作品までの芸術作品が展示されます。

アトリエ・プリティカ

セント・ジョン祭典

ドゥルチッチ・マスレ・プティカ

ロナルド・ブラウン記念館

Držićeva poljana bb

tel: +385 20 323 172





街への入り口

ロクルム 島

ロクルム 島についての最も古い記録は1023年のもので、ベネディクト会の修道院や僧院設立の証明書があります。伝説では、1192年に英国王、獅子心王リチャード1世がリスボナへの第3次十字軍からの帰途、ロクルム 島の付近で難破し、島に漂着したと言われています。彼は命拾いしたお礼として新たな教会を建てることを約束しました。しかしながらドゥブログニクの民衆の希望により、街のカテドラル建築の継続を支援することになりました。1859年にはマクシミリアン・フォン・ハプスブルグが島を訪れ、島を買い取りました。彼は廃墟となった修道院を夏の屋敷に変え、素晴らしい庭園や散歩道を造りました。ベネディクト会の伝統であった庭づくりや異国の春花の栽培はマクシミリアン・フォン・ハプスブルグによって受け継がれ、1959年には植物園が造られました。約2ヘクタールの庭には70種類ものユーカリが植えられ、それはオーストラリア以外の場所では最大のコレクションとなっています。そして853種類以上の異国の植物、453種類の樹木、400種類もの多肉植物が植えられています。自然保護宣言を行った後、1976年にはユネスコの保護のもと、特別な森林・植物保護地区として認められました。総面積0.7km²のうち0.6km²には植物が寄生しています。156種の鳥が棲息するなど、陸にも海にも多様な生物が生息する自然環境豊かな島として完璧な状態を保っています。鳥が住みついています。中でもロクルム 島のシンボルは、マクシミリアン・フォン・ハプスブルグが150年前にカナリア諸島から持ち込んだ孔雀です。島にはから見ると島の形に見えるロイヤル要塞があり、これは1806年にフランス人によって造られました。そこからドゥブログニクやツァウタド、周辺の島々の美しい景色を眺められます。



アクセス

ロクルム 島へは旧市街港から出る船、スカーラ号またはズリンスキ号に乗り、10分間の快速な船旅の後に到着します。旧市街港からは30分おきに出航します。船着き場で乗船するとき、切符を購入できます。第1便は午前9時に出航し、ロクルム 島からの最終便は午後7時、あるいは8時です(季節によって異なります)。島で泊まることは禁じられています。島への船は4月から10月まで運航されます。

湖や浜辺

島内の小さな湖は死海と呼ばれています。地下通路で海とつながっていて子供たちや泳がない人たちにうってつけです。泳ぎを楽しみたい旅行者にもびじりな浜辺もたくさんあります。島中に分かりやすいサインが掲示されています。浜辺には真水のシャワーが完備されています。

■陸好きな人には

島のもう一つの見どころは紫色の洞窟です。名前の由来は、岩を覆っている紫色の海藻です。ここはあまり人々に知られておらず、船で行くか、あるいはヌーディスト・ビーチを抜けていくしかありません。2011年のことですが、当局との話し合いの末、アメリカの人気テレビドラマの受賞番組「ゲーム・オブ・スローンズ」シリーズのロケ地にドゥブログニクが使われることになりました。ストーリーの中で、ドゥブログニクは王の領地。ロクルム 島はジェイド海のキャースの街となり、シーズン2ではデナーリス・ターガリエンがここを訪れました。撮影の一部は植物園やベネディクト修道院の遺跡で行われました。

ピジター・センター

2015年にはピジター・センターで「ゲーム・オブ・スローンズ」の撮影についての展覧会が開かれました。シリーズの撮影風景を収めたビデオが上映され、ドゥブログニクやクロアチアの他の場所でのどのようにして撮影が行われたかが地図上で分かるように表示されています。

リエカ湾

オムブラ 川の河口はドゥブログニクの西の入り口にあり、ドゥブログニク橋の下を流れています。上流の水源にはいくつかの村が半円形に並んでいます。このフィヨルドのような湾は15世紀~16世紀のルネッサンス期にドゥブログニクの貴族の夏の屋敷が数軒あったことで知られています。もっとも目立っていて保存状態もよいのはACIマリーナの端にあるソルコチエヴィッチ家の屋敷です。美しい庭や階段があります。マリーナでは一年を通じてドライ・バーズが利用できます。オムブラ 川のほとりにあるリエカ湾には様々な種類の鳥が棲みついたり、漂着したりしています。ACIマリーナの水辺でコーヒーを飲んでいると、晴や豪華な白鳥が緑色の川面を渡るのを見られることでしょう。リエカへはドゥブログニクのどこからでもバスで行くことができます。



ムリエト 島

ムリエト 島

伝説によると、オデッセイは海の女神カリブソに誘惑されてムリエト島へ来たと言われていますが、あなたも同じようにこの島に魅入されることでしょう。島の南にはオデッセイの洞窟があり、潮が退けばモンクアザラシが見られます。

この島には歴史的、考古学的、文化的な価値があります。緑あふれる島の西側はムリエト国立公園になっています。グレージュ港から船で1時間、あるいはペリエシャツ半島のストンの近くのプラプラトゥンからフェリーで島に行くことができます。島の主な港はソブラです。人気のハイシーズンにはグレージュからボラチエへの高速双胴船のが運航され、下船後は国立公園行きのミニバスを利用できます。旅行者は自転車や小型自動車をレンタルすることができますが、国立公園内への自動車の乗り入れは禁じられています。ここには手つかずの自然が残されており、海峡の向こうの外海と繋がる美しい大小の湖もあります。大きな湖の中にセント・メアリー島があります。セント・メアリー島には12世紀のベネディクト会修道院があり、小型船のシャトル便で島に行くことができます。また湖の周りには小道があって岸辺には歴史ある松林が影を落としています。国立公園の隣のボメナ港は絵のように美しい場所、島で唯一のホテルがあります。



ストーンとペリエシャツ半島

ドゥブロヴニクから西へ1時間ほどドライブすると、魅力あふれるストーンの街に着きます。5キロに渡る壁がこの街からマリ・ストーン湾へと続いています。この壁は、14世紀に半島の他の地域からの侵入を防ぐために築かれました。これは中国の万里の長城にも迫る規模の壁です。ストーンは製塩業で広く知られており、2000年以上も前から現在も続いています。ストーン 産の塩はドゥブロヴニク共和国に経済的繁栄をもたらしました。

マリ・ストーン湾はここで採れる上質な牡蠣が有名で、牡蠣の養殖も広く行われています。また、全長70キロのペリエシャツ半島で産出されるワインも世界的に有名です。半島の端にあるオレピツチの岬までの道中には、ワインテイスティングの楽しめるスポットが各所にあります。コルチュラ島へは短時間のフェリーの航で行くことができます。この島はマルコポーロの島として知られており1見の価値があります。ドゥブロヴニクからコルチュラ島を巡るには、旅行会社の様々な日帰りバスツアーが用意されています。



ツァヴタト

ドゥブロヴニクから東へ18キロのところにあるこの街は、市内バスでも旧市街港からの船便でも容易に訪れることができます。この街の歴史は古く、まずはギリシャ人が、その後ローマ人が居住しました。7世紀にはスラブ族によって占領され、住民は小さな街ラウスへと移住しました。そして、そこからドゥブロヴニクの街が育っていきました。

海岸沿いには魅力的な散歩道があり、数多くのコーヒーショップやバー、レストランが並んでいます。曲がりくねった小道を散策したり半島の海辺沿いを散歩することもできます。他の楽しみ方として、ヴラホ・プロヴァツのギャラリーやイヴァン・メシユトロヴィッチがデザインしたラデッチ家の墓を訪れたり、街外れの丘にある森や林を散歩することもできます。



コナヴレ

ツァヴタトを通り過ぎ、空港のあるエリアがコナヴレです。この谷の高さは、土壌が肥沃で山々からの水も豊かなので、地元産の果物と野菜の大半がここで育てられています。丘の側に小さな村が点在し、できるだけ農作物を広くすると工夫がなされています。この地には伝統的な絹産業が根付き、現在も受け継がれています。実際に数ヶ所では作業を見学することもできます。コナヴラスキ・ドゥヴォールは広く知られたオーソドックスな郷土料理のレストランのひとつで、新鮮なマスやラムを蒸し焼きにした料理が楽しめます。また、サイクリングや乗馬、ジープや4輪バギーでの探検も楽しめます。

コトル湾（モンテネグロ）、メジュゴリエ、モスタール（ボスニア・ヘルツェゴビナ）へはドゥブロヴニクから日帰りで行くことができ、旅行会社が多くのバスツアーを企画しています。



カプリオ・バス（もしくはパノラ・バス）

ドゥブロヴニクのパノラマを楽しめる「カプリオ・ツアー」を運行しています。「カプリオ・ツアー」は東側の旧市街から西側のドゥブロヴニク橋まで、主な観光名所を巡ります。バスの中には9ヶ国語のオーディオガイドが用意されています。バスには、その昔ドゥブロヴニクで人気のある乗り物だった傾かし、路面電車の塗装がされています。カプリオ・バスの乗車券を買えば、その日1日中、市内バスを利用することができます。悪天候の場合、バスが運休することがあります。

Cabrio Bus Information: Libertas d.o.o., tel: +385 20 357 020, fax: +385 20 357 126

E-mail: libertas@libertasdubrovnik.com, www.libertasdubrovnik.hr



楽しみかた、いろいろ

教会やスポンザ宮殿ではストリートミュージシャン、ダルマチアンのボーカルグループ、室内楽アンサンブルの音楽を楽しむことができます。奥のある旧市街部は世界的に有名な音楽家たちにコンサート会場として選ばれています。ドゥブロヴニク・サマーフェスティバルの期間（7月10日から8月25日）は、街の広場でも音楽クラスのコンサートが開かれたり、芝居が観られたりします。

街のギャラリーには画家たちの素晴らしい作品が並べられ、テラスやドゥブロヴニクの浜辺で開催されるプログラム、「星の下でスター」では、暑い夏の夜にカクテルを飲みながらストリートジャズのセッションを夜明けまで楽しむことができます。

海を眺めながらカクテルを楽しむなら、ブージャにある2軒のバーがお勧めです。いずれの店も城壁の外の切り立った崖にあります。

バーの横の階段にちょっと腰を下ろして気軽に飲み物を楽しむのも、地元民の気分を味わえて楽しいものです。

魅力的なディスコやナイトクラブプロシガは、光がきらめきリズムに染った熱狂的な音楽が流れています。旧要塞にあるユニークで人気の高い文化クラブ、「レヴェリン」では、クラブミュージックが楽しめます。「バーニエ・ピーチ」クラブは旧市街のすぐ外にあり、美しい景色と音楽演奏を楽しめます。ビレロは「スカイ・ナイト」クラブがより若者に人気があります。



礼拝に参加するには

4. 5日間ドゥブロヴニクに滞在するなら、古い教会の礼拝に参加してその雰囲気を感じたいと思うかもしれません。暑い街中を歩いて疲れたとき、涼しい教会に入るとほっとすることでしょう。ここでは純粋な魂で作られた黄色いキャンドルを灯したり、遠く良ければセント・ブレイス教会のオルガン演奏を聴けるかもしれません。ステンドグラス越しの陽光が教会の中をカラフルに彩ります。

ドゥブロヴニクのほとんど全ての教会で朝の礼拝と夕べの礼拝が毎日行われています。日曜日は7時から12時まで礼拝があり、旧市街の教会の一部では午後にも行われます。街を歩いて時間の検討がなくなってきたとき、慣習を教会へ訪う鐘の音の響きが聞こえるでしょう。朝の礼拝は、夏の間は冬期に比べて早い時間に、そして夕べの礼拝はより遅い時間に行われます。また、イエスズ協会では英語による礼拝が日曜日の11時から行われます（6月の第1日曜日から8月の最後の日曜日まで）。礼拝の時間はウェブサイトで見ることができます。

<http://www.dubrovacka-biskupija.hr/portal/>



ショッピング情報

旅行や休暇に出かけると思い出に残るお土産を買いたくなるでしょう。

伝統的なクロアチアのお土産やドゥブロヴニクのお土産にはシンボルマークが付いています。



ドゥブロヴニクには様々な伝統的なお土産品があります。キャラメリゼしたアーモンド、フランデー（オレンジの皮の甘蜜）、コトニャータ（マルメロチーズ）、造幣のあるブランデー、最高級の赤・白ワイン、石工による造れた作品、会色のオリーブオイル、そして月桂樹とローズマリーの香りのハンドメイド石けんなどがあります。金細工や針金細工、カーニバルの仮面、そして革製品などの伝統的なお土産品の制作は、自治体にサポートされています。

エレガントで遊び心溢れたデザインな洋服、モダンなデザインのメカネ、スワロフスキーのクリスタルや手作り芸術品に興味がありなら、旧市街のブティックやドゥブロヴニクのグリージュ地区、ラバドゥ地区にあるショッピングセンターにお越しください。（メシカンテ、ミンチェッタ、DOC ショッピングセンター、ジニバ・ドゥブロヴァチュカ のサブ・シティ）

お土産品

お土産品

1. 金細工はドゥブロヴニクでも最も古くからある、最もよく知られた文藝商品のひとつです。金細工の起源は12世紀にさかのぼり、14世紀、15世紀に最も栄えました。機械で卓越した



技術で作られた芸術的な金銀工品は、この地の貴婦人たちの装飾品として高く評価されていました。レデーニー（イヤリング）、プレー（装飾ボタン）のお土産は、未長く愛されることでしょう。精緻な美しさを誇る金銀の針金細工やサンゴ細工は時代を超えて愛され、そのデザインはあらゆるスタイルのファッションにマッチします。旧市街にあるスタジオでは、現在も昔ながらの方法で伝統的なドゥブロヴニクの宝飾品を製作しています。



2. ドゥブロヴニクでの休暇を終えるとき口は、ドゥブロヴニク産の美味しいものを土産にお持ち帰りください。コトニャータ（マルメロチーズ）、メンタラ（ブドウ汁のチーズ）、アランデーニー（オレンジの皮の甘菊）、チャラメリゼしたアーモンド、ドライフルーツ、花の香りのリキュール、菓実入りブランデーなどがあり、こうしたスイーツや飲み物は、今も祖母の代から受け継がれた伝統的なレシピで作られています。強烈な陽光を利用して天日干しされたイチジクは特別な方法で砂糖漬けされています。リキュールは、サワーチェリー、緑のクルミ、イナゴ豆、ピワの果、蜜蝋の花びらなどをブランデーに漬け込み、糖分を加えて太陽の下で熟成されます。



3. プラヴァツ・マリフィンが生産されるペリエシャツ半島のフィナリーは、クロアチア南部におけるブドウ栽培の地として最も有名で、また世界的にもワイン愛好家によく知られています。海に近い日当たりの良い斜面で栽培されるプラヴァツ種、ディンカチ種、そしてブストゥブ種は大胆で豊かなフレーバーを特徴とし、芳醇な赤ワインになります。ボシプ各種の白ワインはコルチュラ島で産出されます。ドゥブロヴニクの貴族のためのワイン「ドゥブロヴニク・マルヴァジア」はしばしば「神の果汁」と称されます。このワインはコナヴレで醸造されましたが、そこではワイン愛好家から愛される最高クラスの赤・白ワインが生産されています。



4. コナヴレの刺繍作品はドゥブロヴニク地方の女性の民族衣装になくてはならないものです。絹織物やカフスに刺繍がほどこされていますが、元々それは絹糸で刺繍されていました。コナヴレでは絹糸を採るために、どこの家でも蚕を大切に育て、絹糸を自然な染料で染めています。そのモチーフは細かな幾何学模様で、シンメトリーが特徴です。きちんとしたシンメトリーな幾何学模様が細かく刺繍されます。使われる色は赤、黒、そして緑で、それに金色の線取りを施しました。ドミニコ会修道院の階段部分には、コナヴレの民族衣装を身に付けた女性が生りやナプキン、テーブルクロスに熱心に刺繍をしている様子が見られます。



5. ガーゴイルの飾られた石工の工屋はドミニコ会修道院の階段の下にもあり、ドゥブロヴニクでは「マスケロンズ」と呼ばれ、各地に点在しています。そこには、クロアチアの伝統的な模様の作品や、十字架像、ミニチュアの要塞のミニチュアなどが並んでいます。その昔、オリーブオイルを保存していた石の容器は今では花瓶として人気があります。小さな十字架のペンダントに飾られた石はドゥブロヴニクの豊かな陽光が込められており、気の利いたプレゼントになります。

6. ヘルシーな地中海料理の基本はクロアチア南部で生産されるオリーブオイルです。黄金色で特別な香りと豊かな味わいを誇るオリーブオイルは、クロアチアの農園で収穫された旬の野菜を引き立てます。自然の素材から作られた化粧品、香りのよいハーブ、薬草、柑橘類なども家族や友達へのお土産に最適です。マッサージに使われるエッセンシャルオイルはラベンダー、ローズマリー、バジミツ、レモン、マンダリンなど、地中海特有の豊かな香りにあふれています。手作りのコールドプレス製法の石けんには、オリーブオイル、椰子、アーモンドオイル、山羊の乳、エッセンシャルオイル、砕いたアーモンドなどの天然素材だけが使われており、ナチュラルな使い心地が楽しめます。



7. フランススコ会修道院の薬局にある化粧品はヨーロッパでも最も歴史ある化粧品のひとつです。現在も200年前と変わらない処方で作られています。ローズウォーター、ローズマリーウォーター、ラベンダーウォーター、金色のクリーム（ミツロウとアーモンドオイル）、ローズオイルの含まれたローズクリーム、ローズマリークリーム、アーモンドローションの入った保湿クリーム、しわを防ぐクリーム（ココアバターとベルガモットオイル）、そしてリップクリーム（ミツロウとバニラ）などがあります。



8. 旅行のお土産としては、アート作品、絵画、彫刻、ガラス器、陶器なども喜ばれます。ドゥブロヴニクの街を歩くと多くのギャラリーがあり、クロアチアのアーティストの作品群を眺めたり、ユニークなアート作品のオリジナルや複製を買い取ることができます。



アート作品を海外へ持ち出す手続きについては、ギャラリーのオーナーにお問い合わせください。

9. クロアチアといえばチョコレート、といわれるほど有名なスイーツをぜひお試しください。パイデーラやグリオッターなど、チョコレート菓子やダークチョコレートを使ったケーキはいくつもあり、いずれも高品質でクロアチアメイドを保証するトレードマークがつけられています。専門店やお土産店で販売されています。

10. クロアチアはネクタイ発祥の地ということはご存知でしょうか。17世紀、クロアチア兵士がフランスで戦ったとき、首に目立つ色のスカーフを巻いていました。これが「クラヴァット」（クロアチア・クロアチア人のフランス語読み）として瞬く間に大流行のファッションとなりました。一般の兵士は粗い麻のネクタイを、将校は絹や薄地木綿のネクタイを身に巻いていました。専門店や旧市街の店では様々な種類のネクタイ（クロアチア語でクラヴァット）を扱っており、多くの種類のネクタイ（クロアチア語ではクラヴァット）が専門店や旧市街の店で売られており、現代的なデザインやなクロアチアの豊かな文化のデザインの商品が並んでいます。



泳ぎ に行くなら

旧市街の雑踏を歩き回ったあとは、ドラブログニクの美しいビーチで寛ぐのもいいでしょう。1番人気があるのは、バーニエビーチで、旧市街のすぐ隣にありロクリム島が眺められます。この小石の海岸からは素晴らしい景色が楽しめ、カヤック、パラグライダー

、バナナボートなどを試すこともできます。のんびり過ごしたいのなら、ビーチに並べられたベッドに横になってカクテルを楽しんでください。ここ以外にも、街や、ロクリム島の風景を楽しめる場所があります。古いセント・ジェイコブ教会の真下に同じ名前の小石のビーチがあり、あまり混雑していません。パビン・クックのビーチ、コバカバーナとカヴァも小石の多い浜辺です。コバカバーナは家族で過ごし、アクティビティーを楽しむのにぴったりです。カヴァではカクテルを味わったり、浜辺でランチをお楽しみください。よい場所です。ラノドゥ 地区のウグアラは美しい砂浜です。ウグアラ港歩道がすぐ近くにある、コーヒーや各種飲み物、食事や買い物を楽しむことができます。混雑を避けながら日光浴をしたい人には、ラノドゥ 地区のソリデュード ビーチが打ってつけです。そのすぐ隣にはベッドを運んで入れるエリアがあります。街の外に行くのならオラシャツに、ハワイビーチがあります。そこからエラフィテ群島が眺められ、コーヒーショップ、バー、ビュレストランがあります。近隣のビーチとしてはグエリネ・ジャリ、ザトン、ブラセデネ、トサルステメ、そしてシュティコヴィツァがあります。それ以外にもたくさんの小さなビーチがあるので、気軽に立ち寄って遊び切った海に飛び込んでみてください。

日光浴のできる砂浜が好きななら、エラフィテ 群島がお勧めです。シパン は小石や岩の海岸ですが、コロチエブ や ロブドゥ なる砂浜が楽しめます。1番大きいのは ロブドゥ にある、シュニユ という砂浜です。きつとお気に召すことでしょう。大きなビーチバーでは食べ物や飲み物を用意しています。リラックスしたいと時を過ごしたいなら、旧市街から舟を借りた、ロクリム 島が最適です。ここにはドラブログニクで唯一のヌーデリスト・ビーチがあります。島の港の隣にあるポルトデ・ビーチなら、ビーチを離れたままアクセスできます。そして島の反対側のデッド・シーや岩山にも足を延ばすことができます。それほど歩くつもりがなく、子連れの方には、デッド・シーの小さなビーチをお勧めします。どのビーチに行ってもクリアブルーの海を楽しめ、素晴らしい思い出になることでしょう。



レクリエーション

をお望みなら

ロクルム 島 やベティナ洞窟へカヤックで渡れば、戻ってくる時には城壁を主役にした素晴らしい風景をご覧になれます。一部の海域ではダイビングセンターやウォータースポーツセンターが企画した特別ツアーが開催され、神秘的なドゥブローニクの海底を探索し、潜水艦が保存された考古学的価値のある場所を訪れることもできます。ラバドゥ では、バビン・クックやラバドゥ 湾、ゴスピノ・ポリエでテニスを楽しむことができます。ドゥブローニクの夏の暑い日には一番いいのは、近くのビーチで楽しむことです。透明で温かい海で泳げば、すっかり気分もリフレッシュされることでしょう。他にも、ビーチでペダリングボードやジェットスキーをレンタルして周辺の美しい洞窟を訪れたり、またバナナボート、水上スキー、ウィンドサーフィンを楽しむこともできます。冒険がお好きな方、頂上にセント・ブレイズ教会のあるゴリツァ・スヴェトブ・ヴライ川に時間をかけて登ることをお勧めします。セント・ブレイズ 祭りの最終日には、人々は旗を掲げて行進し、山頂の教会を訪れます。そこからは街や外海の素晴らしい眺めを楽しむことができます。

ブローチエ の最高級ホテルに泊まるのなら、スヴェティ・ジャコブ地域での早朝ジョギングやウォーキングをお楽しみください。夕日の沈むころにホテルに戻り、ホテルのウェルネスセンターでマッサージを受けたり、プールで泳いだり、様々なトリートメントをお楽しみください。



時間があればトゥブログニクの城壁に登ってみましょう。2キロにわたるこの城壁は街や外海を眺めるのに最適です。海沿いのラバドゥ 遊歩道なら、ウィンターシーズンにもウォーキングを楽しめます。ラバドゥ 湾からネプチューンホテルに至る海沿いの遊歩道を歩くと、岩の上に灯台が見え、遠くにはパビン・クック、そしてコパカパーナ・ビーチが見えます。さらに歩くとオルガン・セーリングクラブがあり、フルーツジュースやコーヒーを飲んでひと休みしたり、クラブのレストランで美味しい食事を楽しむことができます。

運動がお好きなら、スルジユ山の登山がお勧めです。頂上からは街全体、周辺の海、外海と島々を一望できます。徒歩でもケーブルカーでもアクセスすることができます。山に登ったらぜひインベリアル要塞もご覧ください。この要塞は、クロアチア紛争の際に防衛のシンボルとして人々を鼓舞しました。改行もっと冒険がしたいなら、コナブレの美しい田舎町で小型4輪バギーに乗ってみてはいかがでしょうか。ここでは定期的にバギーのイベントが開催されており、免許なしでもレンタルすることができます。ここでは乗馬もできます。オリーブ畑や林が点在する、11キロにわたる「ブルールート」と呼ばれる道をホーストレッキングしながら

、切り立った コナブレ 海岸を眺められます。そこからの眺めは格別です。冒険の最中にお酒がすいたら、土地の名産のスモークハムやチーズ、ワインをお楽しみください。

トゥブログニクでのホリデーには、まだまだ他にもたくさんの楽しみかたがあります。大型の魚を釣るゲームフィッシング、ツァグタトでの昼と夜の釣り、ヨットのレンタル、ストン製造場での塩作り体験、コナブレでのジープ、サファリ、ムリエト 島の国立公園でのサイクリングなどが楽しめます。トゥブログニクでは、ゆったりとしたカヤックツアーも人気があります。自然の美しさを満喫し、海から街の景観を楽しむことができます。



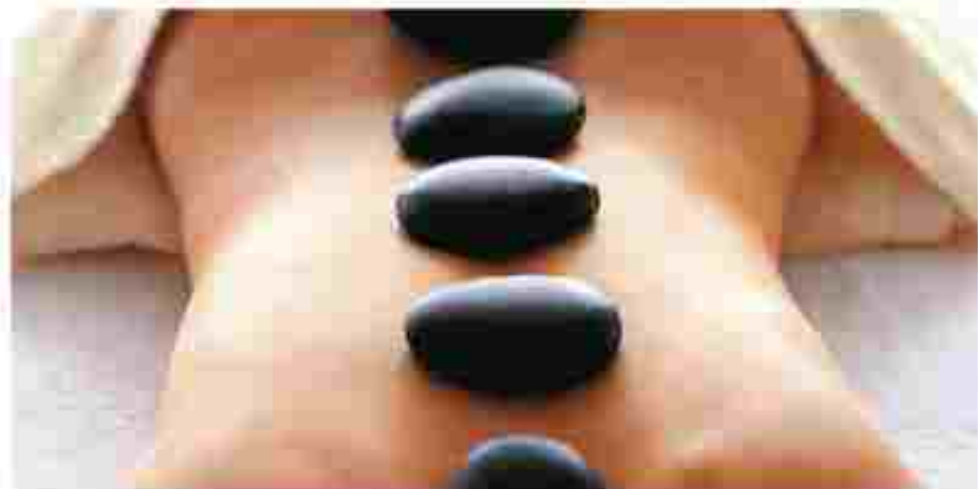
ウェルネス

心と体のハーモニーの場

水中やジムで運動したり、プールで泳いで体感を整え、充分な体力とエネルギーを回復させる。ドゥブログニクではそんな滞在も楽しめます。地中海の暮りに浸った海辺を長い時間散歩し、ホテルのスパでの寛活のようなトリートメントを受ければ心も体も元に戻ります。古代から受け継がれ、東部地中海沿岸部の香ながらのメソッドの影響を受けたトリートメントは体内の水分の循環を改善します。

この街は古きものと新しきものが融合し、建築物と自然が調和し、平和と優雅さに満ち、しかも現代の街としての活気に溢れています。

ドゥブログニクには最高級クラスのホテルが並んでいます。40軒あるあるホテルのうち、12軒は5つ星クラスです。現代の時間に合わせて、ホテルでは最新式のヘルスクラブとスパの設備を備えています。クロアチア国内でも世界的にも、ドゥブログニクのヘルスセンターは高い評価を得ています。ミニマルな装飾、温かみあふれる音楽、落ち着いたムードに包まれたトリートメントルームはトルコブルーの海に面しており、ここで最高のサービスを受けることができます。トルコブルーの海を眺めながら、流石な癒されたい雰囲気を楽しめます。スウェーデン式サウナやミストサウナ、エキゾチックなトルコ風呂、そして東洋式のマッサージやアロマセラピートリートメントなどで心と体のバランスを整え、日々の疲れをリセットすることができます。



子供向け のアクティビティ

子どもを連れてドラゴブログニクを訪れるのなら、ラバドゥーやバビン・クック 地区のホテルに滞在することをお勧めします。戸外で遊んだり、ビーチに沿って周辺を散歩したりするほか、子ども向けのアクティビティが充実しています。ラバドゥー 湾（ラバドゥー）にあるスヴォニミール王遊歩道（シェトゥニツァ・クマリャ・スヴォニミラ）は歩行者専用エリアなので、小さい子どもたちが周囲の小さな公園で遊ぶのにうってつけです。おやつときには美味しいアイスクリームやパンケーキが楽しめます。遊歩道のエンターテインメントセンターでは子供たちが楽しめる様々なゲームが用意されており、大きな映画館「シネスター」ではキッズ向けの映画を上映しています。

ラバドゥー 湾には美しい小石の海岸が数多くあり、小さな水上アミューズメントパークが浮かんでいます。ラバドゥー 湾から隣の木立のバビン・クック へ続く道があり、そこではボール遊び、自転車、乗馬が楽しめます。屋外のミニゴルフ場もありますので家族でプレーを楽しんでみてください。コバカバーナ・ビーチから 半島の反対側にあるバビン・クック まで歩いてほんの数分です。そこにも水上アミューズメントパークが浮かんでいます。

アドリア海の動植物に興味がある子どもには、旧市街の中のセント・ヨハネ要塞のドラゴブログニク水族館での展示がおすすめです。ドラゴブログニク自然歴史博物館では10カテゴリーのコレクションの動物標本が展示され、子どもたちが興味を持ちそうな生花や押し花も見られます。博物館では定期的に教育的なプログラムのワークショップが開かれています。



何世紀にもわたりドゥブログニクの子もたちは橋の通りでサッカーをしていました。特にカテドラルの前やセント・ブレイズ 教会の前、そしてドミノ通りでそうした光景を見られます。セント・ローコ教会の正面には1597年からラテン語の格言が掲げられており、そこには「ボールで遊ぶ者たちよ、人生には終わりがあることを忘れることなかれ」と書かれています。

旧市街から10分ほど船に乗ると、ロクルム 島に到着します。そこは家族で過ごす

のにぴったりの場所です。デッド・シー 湖(死海)があり、博物館を散歩すれば、放し飼いの孔雀の鳴き声が聞こえたり、数百種類にも及ぶ珍しい外国産の植物を見ることが出来ます。島の歴史についてのマルチメディアによる解説があり、世界的に有名な「ゲーム・オブ・スローンズ」のロケがクロアチアで行われたときの様子が展示されています。草原のオリーブの木陰でピクニックをすれば、子どもたちは孔雀や野ウサギや亀に出会い、ロバに騎ったりも出来ます。フィールドアスレチックで体を動かすことも可能です。スルジュ山へ登るケーブルカーに乗って、ボサンカのハニー谷(メデナ・ドリナ)で1日をお過ごしください。子どもたちは新鮮な空気の中でポニーに騎ったり、子ども公園で小動物に出会ったりすることでしょう。もっと長い時間いられるのなら、コナグレ での乗馬やサイクリング、自然遊歩道の散策をお勧めします。その他にもドゥブログニクの周辺では、エラフィデ 群島、特に美しい砂浜、シュニユのあるロブドゥ、そしてムリエト 国立公園がおすすめです。青く透んだ海とまばい木陰のおかげで子どもたちの体力が費われ、エネルギーが蓄えられる。子どもたちが初めて泳げるようになったり、初めて海に飛び込んだり、初めてカヤックやペダルボートに乗った姿を記念撮影すれば、ドゥブログニクの旅はいつまでも心に残ることでしょう。子どもたちはきっとこう言いますよ。「次にまたドゥブログニクに連れてってくれるのはいつなの?」



ドゥブロヴニクの年間行事

12月から1月
ドゥブログニク・ウィンター
フェスティバル

ドゥブログニク・ウィンターフェスティバルでは、ドゥブログニクの新たな一面がご覧になります。様々なイベントがあり、家族のような雰囲気に包まれた街の、静かなる冬の美しさが味わえます。各種エンターテインメントプログラムが実施され、伝統の祭りや音楽祭、食祭、伝統的な習俗が楽しめます。スタードゥンクの夜で最も美しい屋外ステージ

2月
セント・ブレイズの祭り

www.dubrovnik.hr
セント・ブレイズはドゥブログニクの守護聖人です。972年に聖人はこの地を訪れ、病気を治してあげました。この祭りはドゥブログニクを代表する行事の一つです。教会でも、それ以外の場所でもコンサートや音楽会が開かれ、祭典の最中、実演の上演が行われます。聖人ブレイズの像は城壁の隅にあり、ドゥブログニクの街を象徴しています。

3月
映画上映中はどうぞお静かに・・・

www.filmfestival.hr
昨年初めて開催されたドゥブログニク・フィルムイベントは大変な好評を博しました。特に「中央に集うイタリアン・ディ」を愛した幸いで、ドゥブログニクがこの映画年において、フィルム・メーキングについてどのように発展させてきたかプレゼンテーションしました。今年の大会では、2018年にはさらに発展を遂げるような企画が準備されています。

4月
タムマチアン・ソングフェスティバル

www.skladnja.hr
アクラバフェスティバルでは、クロアチアの最も有名なグループによる伝統的な歌謡が奏されます。フェスティバルの名前は「クッチ」または「マヤ」つまり「歌」を意味し、ドゥブログニクでは様々な音楽フェスティバルが開催されますが、中でもアクラバはこの祭典のこの祭典の音楽を聞く絶好の機会です。祭典音楽を聴くだけでなく、今後はクロアチアの音楽家フェスティバルとして注目されることでしょう。

2018年5月
ドゥブログニク・音楽祭

www.dsf.hr
ドゥブログニク・シンフォニーオーケストラによる新たな音楽祭です。4月にはスラヴォクシック音楽の演奏会が開かれ、ドゥブログニクの文化のイベントを見られます。

4月
ドゥブログニク・フェスティバル

www.dubrovnikfestival.hr
ドゥブログニクとドゥブログニク・ネリトツァ地区には毎年数千人のフィン愛好者がフィンランドを訪れ、

フィンランド音楽が数々あることを知ります。その中心となるのは「Wille」フィンランド・スト・ネットワーク」という名のイベントです。ドゥブログニクでは「Dubrovnik Festival Wille」が4月に開催されます。100種以上のフィンが演奏され、フィン愛好者やフィン音楽愛好者に好まれるでしょう。この地域のフィン人は音楽で力強い誇りを持っています。また人に見られていないフィンもある。これからますます人気が高まることでしょう。

4月
ドゥブログニク・ルーフマラソン

www.du-motion.com
ドゥブログニクの屋根はユニークな世界遺産です。この新しいスポーツイベントに参加して24キロにわたる屋根を走ることは歴史的な体験です。参加費には限りがあり、早め、ドゥブログニクの屋根を歩きたいイベントです。21.1キロのルーフマラソンはプロフェッショナルスタートレックを通じてグループ、カンダフィグまでの参加者を歓迎します。このマラソン・マラソンは広くオープンに後援者でランナーがゴール地点です。

「レース以上の体験」をモットーとして、この新しいイベントは計画されました。様々なライブスタイルを盛り込んだ、ランナーはクッチの音楽と守護聖人セント・ブレイズの祝福に包まれ、世界遺産であるドゥブログニクの歴史をニュメントを探索することができます。

6月
オルランド・フリー・ザ・パルク音楽祭

<http://www.dsf.hr/hr/>
ドゥブログニク・シンフォニーオーケストラによるパルク音楽演奏会が6月に開催されます。



では、クロアチアで最も人気のある祭典が開催します。大規模なパーティーでは、この夜のスター・ディノ・メルリンの登場する見ごたえのあるコンサートが開催されます

1月から2月
ドゥブログニク・フェスタ
毎日開催この祭典は、セント・ブレイズの祭典、そしてドゥブログニクの街の祭典のところに毎年開かれ、公的な祭典プログラムが行われます。

2月
ドゥブログニク・カーニバル

www.dubrovnik.hr
「私たちの街は美しいものです。それになるために。」これは2月のドゥブログニク・カーニバルのテーマです。カーニバルの祭典は祝賀をなすことが許されるので、人々は自分以外の誰かになりきって楽しむことができます。ドゥブログニクのカーニバルはショー・クワ・大衆的、騒々しく、非常に面白いです。ぜひこの特別なドゥブログニクをお楽しみください。





6月
登場の小規模なフェス
ディバル

www.aspenfestival.com
このフェスティバルは小規模ですが、世界から招かれたアーティストによる注目の文化イベントです。毎年このフェスティバルには、詩人、俳優、舞臺劇などの多彩な才能が繰り出されるアーティストが多数います。

6月
第25集

www.ansugradia.com
この音楽祭は音楽家達に特化し、性別の音楽家スワッチの
才能あるアーティストが参加
する。アーティストは、スワ
ッチアーティストのグループ
の能力が音楽家達に与える
影響を、フェスティバルに
参加する日である5月21日
（世界音楽の日）の夜に、そ
の間に発表する。スワッチ
アーティストの発表は、スワ
ッチの発表と同時に行われ

6月1日~57月
 麻理の舞台

http://midsunnen-scene.com/

は毎年開かれていた英語による演劇祭です。ドイツ・ロザニクで最も美しい自然環境のあるセント・ローレンス英語劇場会場です。ここではシェイクスピアのよく知られた演劇が英米・クロアチアの劇団俳優によって共演されます。

6月か7月
トブログニクオペラ
フェスティバル
www.dubrovnik-opera-festival.com

20世紀初頭に「ロウ・ロウ」の
名前で有名なこのデザイナー
「数々 デザイン/パティエール」
を記念した「フェスティバル」
です。「デザイン/パティエール」
記念オペラ・ハウスフェスティ
バル」は、そのひとつの例の
オペラ屋として建てられ、ド
ップルゴシックのオペラ屋、人
を驚かす。つまり、すべての作
曲家による同じオペラ作
品が公開され、人々を驚かす
こと。つまり、



7月から8月
トップロウニク造りの夏の
イベントプログラム

www.tadainbunka.jp
No.2 ロック・クラシック音楽祭
は今年初めて、毎年1
にわたって愛媛県各地の
の音楽、伝統音楽、民族音楽
な伝統を、クラシック工
ターテインメントプログラム
エレクトロニック、ダンス、
パフォーマンスに関連する
を盛り込んでいます。観光に
められたものは伝統音楽を
て音楽を演奏すること
て、今年も夏に、ガラ
マニア、新進グループによ
る歌、民族音楽演奏、クラ
シック音楽コンサート、クラ
シックの音楽アーティストによる
演奏が、コロチア、ロドリ
ゴ、サンティアゴ、ロドリ

オランダの成金族フェースで、
ハルで寝たか、とあるようです。

7月から8月
ドゥプロロニク・サマーフェ
スティバル

www.dubdrivethroughfestival.co.uk

クワダテラ全土において、そしてトップログロニックにおいては、トップログロニック・サマーフェスティバルは最も大きなフェスティバルです。1960年から始まり毎年7月10日から8月25日まで開催されます。

7月15日

www.civililliga.fr
トップページから「リーグ」で
は、世界で最大規模のアマ
チュア・フットボール・チ
ャンピオンズが88歳になる
。40チーム以上の参加が
あり、2月初旬からリーグ戦
がスタートします。

8月
25日 星期三

<http://japan-film.com/>
 シン・空では無事重なること
 と映画学校と特異なイベ
 ント「シン」の開催が学校
 が開校します。映画祭、音
 楽祭、ダンスに、ドイツ、グ
 ロアニア、ボスニア・ヘルツ
 ゴビナ、スロヴェニア、英
 国が参入する国際色豊かな
 イベントです。シン空での
 フェスティバルは2017年
 ニコ市の後援を受けて10月4
 日から14日まで開催され
 、選ばれた10本の映画が上
 映されます。「シン」が映画
 学校の採用によるものと思
 われていますが、真になる
 と映画は映画を通じて世界
 の人々と交流し、シン空
 に進む子供達には、ヨーロ
 プや世界の各地からやって
 くる人と親しくなり、グリ
 イティエなど絵巻を扱う場
 合に習作も出るとのこと。

7月か8月
夏の終わりの音楽フェス
ディバル

9月号に登場するこの新たな
フェスティバルは、トップロ
ラング・サマーフェスティバ
ルが開催される。7月25

これは行違当であることには
音楽や文化が実天清にあるよ
うにと、ドゥプロヴニク・シ
ンフォニーオーケストラが注
意を引いて伝えている。

9月
クロアチア憲法とマナー

マレードのフェスティバル
<http://dessa-dubrovnik.hr/>
 クロアチアには美事食文化、文化・伝統があり、このフェスティバルはセント・ブレインズ教会の、ストラトドンで開かれます。クロアチア全国各地の人々が、それぞれの出身地の音楽や舞を身に着けています。衣装は一般の民衆のものでも、そしてレストランの装飾も同様です。レストランの料理を色々にするのにも役立っています。(衣装は一般の民衆のものでも、そしてレストランの装飾も同様です。レストランの料理を色々にするのにも役立っています。)

9月15-10月
10月15-11月

work.dso.hr
トッププロダクション・シンシアニ
ーワークスとは秋の音楽
祭を閉めます。新たに秋に
ちなんだ曲目を用意し、たく
まんの曲をお楽しみください。

109 5100-37-47

ITTF 男子・ITTF女子テニス
試合
ドップルテニクで最も有名な
なスポーツイベントのひとつ
がテニスです。クロアチア
・ユーゴスラビア出身のテニス
選手はプロとしてのデビュ
ー戦をここで果たす。最
一流の選手が戦われる
ことで注目を集め、多くのテ
ニス選手、テニスファンが注
目されている。

10月

www.tadubrovnik.hr
ドゥブロヴニク観光局が主
導するこのユニークなフェ
スティバルでは、多くの新し
い料理が発表されている。

た。秋の祭典。10月にここを訪れる観光客に特別に実施していただく。土曜日の夜も楽しめる人気のある料理イベントです。音楽のフェスティバルでは、この地方ならではの伝統的な料理を披露したり、子供たちのための食育プログラムも、地元のワインのデイスティング会や料理教室が開かれます。「有名なシェフとディナーを一緒に」というイベントの、トップロブニクの特別な料理の作り方、レストランの特別料理の作り方を体験する機会もあります。

12月から1月
トップロブニク冬のフェスティバル
www.tdubrovnik.hr
冬のフェスティバルでは、ド

ャブロブニクとその周辺で、面白くて文化的な楽しいイベントや、音楽や芸術を堪能するイベントなどの様々なプログラムが用意されています。
バスケット、ストリートダンス、そしてダンサーティのように、遊びにはない由からの歴史ある場所が、ホリデーのイベントにはいるようなイベントが開催されます。子供たちもスケートリンクやクリスマス物語のショーに連れて行きます。無料入りのホットワインで温まり、クロアチアスタイルのデザートも試してください。朝のポトリー、肉料理を、特別なトップロブニクの信

頼的な甘いお菓子の作り方を習ってみてください。

アドベント (キリスト降誕祭)

www.dubrovnikwinterfestival.com
キリスト降誕祭は最初のアドベントキャンドルを打することから始まります。人々が会合し、その精神がこの特別なトップロブニクではよく見られることです。今年のクリスマスマーケットは美しいストロブドンで開かれる予定です。もては伝統的なクラフトやクリスマスの飾り、伝統的なクリスマスケーキやお菓子が並べられています。伝統的なホリデーリングを、歌ってごめんなさい。参加で

楽しみ、ホリデーを祝うトップロブニクコレクション (無料) は、大層なクリスマスイベントの曜日に行き、行かれています。

大晦日
12月31日、大晦日の朝から始まる大きな音楽のプログラムと共に新年を迎えることでしょう。お正月には3日朝のうちに様々なイベントがあり、雪と温泉を味わうことが可能なのは、新年は最初の10キロレースで開始され、トップロブニク・シンフォニーオーケストラの特別コンサートがあります。お正月のランチにはオイスターとシャンパンをお楽しみください。

重要な連絡先

トップロブニク・ツーリストセンター
Rivaj 3
tel.: +385 20 312 015
fax: +385 20 312 025
e-mail: info@tdubrovnik.hr
www.tdubrovnik.hr

ツーリスト・インフォメーションセンター
ビル (Rivaj 3)
tel.: +385 20 312 011
e-mail: web.pis@tdubrovnik.hr

グループ
Oblak House, Ploče 8, hr. 1
tel/fax: +385 20 417 983
email: web.igru@tdubrovnik.hr

マリナ
Mazarski put 2
tel/fax: +385 20 437 400
e-mail: web.igru@tdubrovnik.hr

ザトン
Palača 6B 2
tel/fax: +385 20 881 230
e-mail: web.igru@tdubrovnik.hr

ロブド
Obala kneza Branimira 12
tel/fax: +385 20 312 377
e-mail: web.igru@tdubrovnik.hr

マリナ
Luka 1 h, Luka Špirova
tel/fax: +385 20 750 004
e-mail: web.igru@tdubrovnik.hr

重要な電話番号

インフォメーション 18981
タクシー 11888
警察 11802
火災 11816
クロアチア警察クラブ 1987
ロードアシスタンス 1987
レッカーサービス

+385 20 111 014
+385 20 312 366
警察本部、情報センター 112
クロアチア消防隊
+385 91 112 92 00
消防 192
消防隊 193
救急車 194

トップロブニクの電話
+385 20 431 777
観光案内 +385 20 418 666
観光客 +385 20 443 333
警察本部 +385 20 443 333
警察本部 +385 20 443 333

警察 +385 20 772 000
トップロブニク案内
+385 20 773 377

パスターニル 060 305 070
市役所 +385 20 418 988
市役所 +385 20 312 333
マリナ・トップロブニク

+385 20 455 020
マリナ・トップロブニク +385 20 357 030
市役所
マリナ・トップロブニク +385 20 418 000

トップロブニク
+385 20 351 800
トップロブニク・ホテルマダ
ダ
+385 20 351 400
警察本部 +385 20 351 800
ツーリスト・インフォメーション
+385 20 351 045

トップロブニク・ネットワー
ク
+385 20 324 999
fax: +385 20 324 778
e-mail: info@tdubrovnik.hr
www.tdubrovnik.hr

祝日

1 January 新年
6 January 22日
22 April 2018 復活祭
23 April 2018 イースター・マウンデー
1 May メイデー
20 June キリスト降誕祭
22 June キリスト降誕祭
記念日
25 June 国慶の日
5 August 勝利と国土愛の日
15 August マリア昇天祭
6 October 独立記念日
1 November 万霊節
35 December キリストマ
ス
26 December クリスマ
スの日

店舗の営業時間

大半の店が年終を過ぎて午前8時から午後8時まで、月曜日から土曜日まで営業しています。ほとんどの店は夜間時まで開いています。祭りの日や祝日には休業しています。祭りの日や祝日には休業しています。大半の店は日曜日と祝日は休業しますが、観光客、市役所やホテルは日曜日や祝日に営業しています。祭りの日や祝日には休業しています。大半の店は日曜日と祝日は休業しますが、観光客、市役所やホテルは日曜日や祝日に営業しています。大半の店は日曜日と祝日は休業しますが、観光客、市役所やホテルは日曜日や祝日に営業しています。

ドゥブロヴニク・リビエ
ラの観光情報パンフレッ
トの情報は2018年1月
のもので、ご旅行前に
最新情報をご確認ください。

お体の不自由な方へ
城壁の内部にある参
拝の情報は「バリアフ
ー」化されています。興味関
心などお訪れたときに利用
の案内に準拠して必要な場
合はご自身へお話ししてくだ
さい。+385 99 815 2934
乗馬手運転乗馬の大半は、通
訳サービスの乗馬手が数人お
ります。また乗馬乗馬の貸し出
しも行っています。乗馬乗馬
のサービスは無料ですが、ド
ゥブロヴニク多文化性強化協
会にてお貸しをお願ひしてい
ます。お貸しを申し込めるこ
ろにご連絡ください。
ドゥブロヴニク多文化性
強化協会
+385 20 425 095
e-mail: dma_dubrovnik@
sdm.hr



GOOD FOOD Festival

Dubrovnik 2018

11-21 OCTOBER



**TASTE
THE BEST
OF OUR LOCAL
CUISINE!**

Don't miss!

dinner with a famous chef | festival menus | visiting cuisines
traditional dishes | tastings | workshops | presentations | a food fair
gastro tours | entertainment | live music



Turistička zajednica
grada Dubrovnika
Dubrovnik
Tourist Board

www.tzdubrovnik.hr